

# 令和3年度

## 地域魅力化応援隊員業務報告書

### <総括表>

地域魅力化応援隊員が

魅力ある地域づくりを応援します



益田市政策企画局連携のまちづくり推進課

(1) 令和3年度地域魅力化応援隊員名簿	P. 2
(2) 益田地区	P. 3～P. 6
(3) 吉田地区	P. 7～P. 9
(4) 高津地区	P. 10～P. 13
(5) 安田地区	P. 14～P. 17
(6) 鎌手地区	P. 18～P. 21
(7) 種地区	P. 22～P. 26
(8) 北仙道地区	P. 27～P. 30
(9) 豊川地区	P. 31～P. 34
(10) 真砂地区	P. 35～P. 36
(11) 西益田地区	P. 37～P. 40
(12) 二条地区	P. 41～P. 44
(13) 美濃地区	P. 45～P. 46
(14) 小野地区	P. 47～P. 50
(15) 中西地区	P. 51～P. 53
(16) 東仙道地区	P. 54～P. 57
(17) 都茂地区	- (不在)
(18) 二川地区	- (不在)
(19) 匹見上地区	P. 58～P. 61
(20) 匹見下地区	P. 62～P. 64
(21) 道川地区	P. 65～P. 68
(22) 地域魅力化応援隊員事業実施要綱	P. 69～P. 70

【地域魅力化応援隊員とは】

総務省が制度化している「集落支援員制度（特別交付税措置）」の益田市版で、地域の課題整理や住民同士の話し合いの促進等により、住民自治機能の強化を支援します。地域魅力化応援隊員は、配置の希望があった地区に配置しています。

令和3年度地域魅力化応援隊員名簿

No.	配置先	活動地区	氏名	採用年月
1	益田公民館	益田地区	藤井 洋司	平成30年6月
2	吉田公民館	吉田地区	石田 令子	平成30年4月
3	高津公民館	高津地区	梅津 梨紗	平成29年4月
4	安田公民館	安田地区	尼子 達夫	平成27年5月
5	鎌手公民館	鎌手地区	福原 智之	令和3年4月
6	種公民館	種地区	有田 学	令和3年4月
7	北仙道公民館	北仙道地区	三宅 望実	令和2年9月
8	豊川公民館	豊川地区	岡崎 友臣	平成26年4月
9	真砂公民館	真砂地区	岸本 真樹	平成27年8月
10	豊田・西益田公民館	西益田地区	大畑 咲絵	令和元年6月
11	二条公民館	二条地区	堀江 宗仁	平成29年4月
12	美濃公民館	美濃地区	大庭 真弓	令和4年1月
13	小野公民館	小野地区	宮内 英之	平成30年4月
14	中西公民館	中西地区	石川 祐子	令和2年4月
15	東仙道公民館	東仙道地区	青戸 美奈子	平成28年4月
16	匹見上公民館	匹見上地区	檜谷 望	令和3年4月
17	匹見下公民館	匹見下地区	藤原 宗則	令和元年8月
18	道川公民館	道川地区	高田 純子	平成26年4月

計18名

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

益田公民館

2. 配置年月

平成30年6月から

3. 活動の概要

①活動の内容（地域自治組織設立後の活動支援）  
会議等

- ・ 4月9日 第1回歴史部会  
今年度の事業計画について協議  
フォトコンテストの審査について協議
- ・ 4月19日 第1回役員会  
定期総会議案について協議  
書面表決の担当について協議
- ・ 5月11日 益田市立歴史民俗資料館の今後について（歴史部会員参加）



- ・ 5月16日 令和3年度定期総会（書面表決）  
令和2年度事業報告並びに収支報告について  
役員改選（案）について  
令和3年度事業計画（案）について  
令和3年度収支予算（案）について  
※5月20日 書面表決書の集計・議事録作成
- ・ 6月21日 第2回歴史部会  
スタンプラリーの概要、今後の検討課題について協議
- ・ 6月30日 第1回ふれあい部会  
ホームページについて協議  
移動手段のアンケートについて協議  
益小プロジェクトについて説明  
※（今年度からふれあい部会で担当）
- ・ 7月13日 第1回安心安全部会  
今年度の活動予定について協議



- ・ 7月30日 第2回役員会  
各部会からの報告と今後の活動について協議  
規約細則の一部変更について協議
- ・ 8月2日 第3回歴史部会  
スタンプラリーについて協議
- ・ 8月10日 日本遺産ビジターセンターについて（歴史部会員参加）



- ・ 8月25日 第3回役員会  
市の取組みについて（日本遺産推進室）説明  
意見交換会（益田市、自治組織、益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり  
実行委員会、しまねいわみ観光振興機構）
- ・ 8月30日 第4回歴史部会  
スタンプラリー役割分担について協議
- ・ 9月21日 第2回ふれあい部会  
公共交通について協議
- ・ 9月30日 第5回歴史部会  
スタンプラリーについて協議（益田東中学校及び各班からの状況報告と課題）
- ・ 10月4日 第4回役員会  
各部会からの活動報告と協議  
まちづくりについて(意見交換会で出た『窓口』について)協議
- ・ 10月12日 第2回安心安全部会  
スタンプラリーの応援体制について協議  
自主防災組織について協議
- ・ 10月26日 第3回ふれあい部会  
スタンプラリーの応援について協議  
益小プロジェクトについて情報提供  
移動困難者へのアンケートについて協議  
益田地区の祭りや団体引継ぎについて協議
- ・ 10月28日 第6回歴史部会  
スタンプラリーについて協議
- ・ 11月29日 第5回役員会  
各部会からの活動報告と協議  
石田副会長への回答書について協議
- ・ 12月17日 第3回安心安全部会  
豪雨・水害時避難所マップの更新について協議

部会員研修会（自主防災組織について）

- ・ 1月20日 第4回安心安全部会  
豪雨・水害時避難所マップの更新について協議  
次年度の事業計画について協議
- ・ 1月28日 第6回役員会  
各部会からの活動報告と協議  
七尾まつりについて協議  
次年度の事業計画について協議

## 事業

### 【歴史部会】

- ・ フォトコンテスト 2021（春）3/1～5/15 6月28日各賞発表
- ・ フォトコンテスト 2021（秋）11/1～12/15 12月24日各賞発表

### 【ふれあい部会】

- ・ 益小プロジェクト 1/6、1/16、(1/30 開催延期)

### 【安心安全部会】

- ・ 自主防災組織について部会員勉強会（12月17日）
- ・ 「益田地区豪雨・水害時避難所マップ」更新、全戸配布(2月21日)

### 【全体取組】・・・歴史部会が中心となって計画、準備を行った

- ・ 11月23日 「日本遺産認定記念スタンプラリー」  
(共催：益田市立益田東中学校)



## ②活動の成果及び効果

昨年度は、設立から間もない自治組織の認知度アップを図るために「活動が見える成果物」を目標にし、達成する事ができた。今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、出来る事を出来る範囲で活動を進め、少しでも繋がりを増やしていく事を目指した。安心安全部会は、「益田地区豪雨・水害時の避難所マップ」を基に自主防災組織設立に向けて情報収集と部会員の研修会を実施。また、避難所マップの発行後に、災害情報が変更になったため改めて見直しを行い第2版を全戸配布した。ふれあい部会は、今年度から益小プロジェクトを部会の事業として取組んだ。また、交通・移動困難者の声を直接聞き取る調査を実施。今年度最大の事業となったのが、歴史部会が企画した「日本遺産認定記念スタンプラリー」である。部会で作製した地図の活用企画として提案され、歴史部会員である益田東中学校倉橋校長の働きかけで、中学1年生全員が参画して地区内の団体や個人と一緒に創り上げていく事になった。歴史部会だけでは人員不足のため、役員会の承認を得て自治組織全体の事業として実施した。

一人でも多くの人に参加して欲しい企画だったが、計画立案時期に新型コロナの感染が続いていたため、定員を100名とし事前申込み制を取った。実施に向けて、幾度となく中学校に出向き、生徒たちと準備を進めた。当日は、寒い日であったにも関わらず欠席者が少なく中学生の親世代から多数の参加があった。参加者アンケートでは、中学生の頑張り今回の取組みに対して温かい言葉と声援が多数あり、今後も継続を望む意見が多かった。次年度に多くの可能性を感じるいい活動であったと思う。

#### 4. 残された課題と今後の提案

昭和58年の水害の影響もあり、昔から街の中心であった益田川の南側は人口減少が進み、北側は農地から宅地になり居住者の割合が逆転している。自治会の規模に大きな差があり、自治会によって、高齢化、活動の担い手、移動手段など深刻な問題を抱えている。商店、医療機関の減少、金融機関の撤退など自家用車を持たない住民にとっては住み続け難い環境になりつつある。

益田地区の最大の強みは、保育園、幼稚園、小学校、中学校をはじめ、高校が3校ある文教地区である事である。益田東中学校1年生と取組んだ「日本遺産認定記念スタンプラリー」や、今年度からふれあい部会で取組む事になった益田小学校6年生有志との「益小プロジェクト」など自治組織が直に学校と関わる事も出来つつあるが、若い世代の発想力と行動力を取込んで益田地区の活性化に繋げるために、継続、発展させた関係づくりを心がける必要がある。小さくても、一つでも多くの種を撒く活動を続ける必要がある。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

平成30年6月から約4年間の活動でした。自治組織誕生の瞬間から最初の一步を踏み出す時期に関わる事ができた。まだまだ、自治組織の認知度が低く、活動に関わっている人はごく一部で殆どの住民が「何をするのか」、「何が変わるのか」様子を見ている状態と言える。

最初から大きな事に取組まず、出来る事から実績を積み重ねて行く事で少しずつ仲間を増やしていけば、5,800人がそれぞれ小さい力を出すだけで大きな結果が得られると考えて活動してきた。小さなステップでも、1段上がるだけで達成感と見える景色は変わってくる。「これが出来たんなら、あれも出来るんじゃない」と新たな目標を見つけて継続する事が大切で、中心となる人物や団体には、それなりの熱量がないと物事は動いていかない。私が知らなかっただけで、益田地区には若い世代にも熱い思いの人や優れた技能の持ち主が多い。彼らが、のびのび活動できる環境づくりができれば益田地区の未来は明るい。

ここ2年は、コロナで定期総会が書面開催となった。本来なら必要な書類が行き来すれば総会が成立するが、「事務局から代議員に総会資料を送付しますので、役員で分担して、表決書を持って訪問して、補足説明・意見・困り事・苦情を聞いたうえで記入してもらっては如何でしょうか」という提案を承諾していただいた役員の方々に感謝したい。新しい試みに正解はない、「本当に、これでいいのか」「他の人ならもっと簡単に解決できるんじゃないか」と自問自答の毎日だった。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

吉田地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

① 活動の内容

- ・地域自治組織の活動支援及び組織運営の支援
- ・地区住民等と連携して地域課題の整理、情報の共有化を図り、住民自治機能の充実や機能強化を支援
- ・まちづくりプラン等の策定支援
- ・公民館との連携、各種研修会に参加

② 活動の成果及び効果

(1) 役員会の開催

- ・令和4年度活動計画の策定
- ・以下のことについて協議し、組織運営の強化を図りました。  
規約・決裁権限及び職務分掌・部会マニュアル（内規）の修正  
執務室の管理、ホームページ作成、携帯電話購入、貸し出し備品の管理等
- ・益田市内の自治組織が情報交換する座談会の事務局を引き受けました。

(2) 安心安全なまちづくり部会 防災班

- ・元町・南町合同防災訓練開催の支援（9月19日）

初めて合同防災訓練を開催し、114名が参加しました。告知放送や消防団による伝達を聞いてから避難を開始するなど、実際の災害に沿った訓練を行いました。その後、非常用の簡易トイレを作る訓練もしました。



- ・吉田地区防災協議会開催（12月5日）

防災講座「みんなで助ける、みんなが助かる」全2回講座の2回目  
講師：八千代エンジニアリング株式会社 寺脇 学 氏



39名が参加し、一人一人の生活にあったオリジナルの避難計画づくり（マイ・タイムライン）について学びました。

(3) 安心安全なまちづくり部会 安全班

- ・見守り活動グループへの支援活動について協議し、現在活動しているグループの現況について調査を行いました。

(4) 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会 にぎわい班

- ・「にぎわいチャレンジ！わくわくワークショップ」を開催し、吉田地区を元気にする人材を育て、仲間を増やす試みをしました。まずは、イベント企画力を育てるためのワークショップでノウハウを学び、その後「来ぶらりマルシェ」や「日本遺産マルシェ」などへ3回出店しました。多くの方に、活動への興味を持っていただきました。



(5) 健康なまちづくり部会・歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会歴史文化班

- ・11月7日、「健康ウォーキング『雪舟山水郷』史跡・名所めぐり」を開催し、参加者51名と3kmのコースを歩きました。益田中学校の生徒さんも参加し、受付の補助をしていただきました。また、それぞれの史跡・名所では文化財課の職員さんから詳しい説明を聞きました。



(6) 研修会に参加

- ・公民館等職員研修「『種』から住民とともに育てる事業づくり（5回シリーズ）」に参加し、「にぎわい班」の活動をテーマにして事業づくりを学びました。
- ・オンラインセミナー「小さな拠点づくり地域の学校」に役員数名と参加し、事業の未来への道筋を整理し、戦略を立てることを学びました。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### ① 組織運営

- ・住民が参加しやすい環境の整備ができていないので、いろいろな機会に交流の場を作るなどの工夫が必要です。
- ・規約や規則の見直しをし、現状に沿うものに訂正、変更します。

##### ② 安心安全なまちづくり部会

- ・今までは地域全体に向けての防災研修でしたが、大きな被害が予測される地区の自治会と個別に話し合いの場を持ち、行政とも課題を共有して、具体的に解決していくことが必要と思います。
- ・現在、安全班では子どもたちの見守り活動について協議をしていますが、独居高齢者の見守りについても取り組みたく、まずは現状把握のための聞き取りをします。

##### ③ 歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会に

- ・「にぎわいチャレンジ」事業は、その性格上、他の事業と協働しやすく、住民参加のハードルが低いので、初めて自治組織の活動に参加するきっかけになります。吉田地区に人が集まる工夫を考えるとともに、住民同士のつながりを強める方法についても検討したいと思います。

##### ④ 健康なまちづくり部会&歴史文化を活かしたにぎわいづくり部会歴史文化班

- ・本年度は、第1回「健康ウォーキング」を開催しました。回覧による周知のみでしたが、多くの方にご参加いただき、楽しく開催できました。来年度は、ウォーキングの推進をしつつ、さらに健康寿命を延ばす活動について検討していければと思います。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

本年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、いくつかの事業が中止や延期となりました。集まることもままならないなか、活動回数は減りましたが、防災協議会や健康ウォーキングを開催し、「にぎわいチャレンジ！」事業もスタートしました。どの事業も参加者からの評判が良く、新しい出会いがあり、仲間を増やすことができたことは主催者側の喜びでした。

昨年に引き続き、役員さんがそれぞれの役割を担い、協力して着実に遂行されました。この1年間、応援隊員の活動ができたことは、そんな皆さんの協力のお蔭だと感謝しています。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

高津地区

2. 配置年月

平成29年4月から

3. 活動の概要

①活動の内容

<全体として>

- ・4月に正式に市から設立認定を受け今年度スタートを切った。目の前の課題へ、出来る事から具体的に取り組んだ。
- ・万葉の里高津未来の会をより多くの人に知ってもらう為、会報を3回発行、5月に開催された連合自治会長会にて趣旨説明、10月には会員（地区住民）に対して再度説明会を開催。対話の場を設定し周知を図った。また、高津公民館内に、万葉の里高津未来の会の掲示コーナーを設置。会議や活動等の様子を随時SNSでも発信、告知端末放送も活用し、情報発信には特に力を入れている。

- ・本会の周知方法の1つとしてロゴマークを作成。



- ・自治会アンケートを実施。各自治会の活動、抱える課題、本会に対する意見・要望を洗い出し、今後の活動に活かすこととした。
- ・高津公民館は地域住民の活動の拠点であり、また災害時には避難所として開設されるため、24時間いつでも使用可能なWi-Fi設備は今や必須であることから、Wi-Fi工事を行い設置した

<部会活動>

◆歴史・伝統文化の薫るまち部会

- ・高津公民館との共催で、2年前にホーランエーに関わった高津中学生3名を中心とし、益中生1名、匹見中生1名、翔陽高校生1名、県大生1名が集まり、和太鼓を打ち、祭り太鼓でホーランエー神事の船出前の活気づけ・盛り上げを目的とし事業のスタートを切った。

講師には、今福優さんを招聘し、浜地区にある連理松センターで稽古を5回行った。ホーランエーに向け稽古を始めたが、コロナの影響で中止となった。その為、発表・披露の場を萩・石見空港マラソンに切り替え、稽古でお世話になった連理松センターの近隣住民へと、マラソン会場のランナーの方たちに和太鼓で元気を届けた。

和太鼓をとおし、異世代・他校との素敵な交流となった。



(連理松センターにて)



(萩・石見空港マラソン会場にて)

- ・まちづくり活動特別補助金を活用し、ふるさと教育デジタルアーカイブ事業に取り組み始めた。貴重な、歴史伝統文化遺産、伝統芸能等の無形遺産をデジタル化して記録保存し、後世に継承できるように取り組んでいく。高津地区のデジタル映像として一元管理し、ふるさと教育に活用できるようにしたいと考える。その為に、まずは情報収集に必要なパソコン1台、タブレット2台を購入した。
- ・ふるさと教育デジタルアーカイブ事業を進めて行く中で、県立大学の専門家にデジタルアーカイブに関する知識・スキルアップの研修会講師と顧問の依頼をした。
- ・まちづくり活動特別補助金を活用し、浜地区にある金刀比羅神社境内に、永く放置状態であった歴史的価値のある石臼(2基)を掘り出し新たな台座に据え替え、説明版を設置した。



#### ◆安全・安心なまち部会

- ・毎日の見守り活動(朝・夕の児童・生徒の登下校)を軸に日々活動を行っている。
- ・通学路の危険箇所除去活動を行った。小学校裏の通学路となっている道に、雨が降ると大きな水たまりになり、ぬかるむ場所があった。そこでは、何度も児童が身動き取れなくなることがあったが、真砂土を入れた事で問題が解決された。



- ・まちづくり活動特別補助金を活用し、持石・三里ヶ浜の踏切り付近の交差点に防犯カメラと看板を設置し、児童・生徒の登下校、地域住民の安全確保、危険の抑止力、犯罪・事故・トラブル等への手立てに役立てることに期待する。



- ・安全・安心なまち部会と連合自治会が中心となり、高津小学校、高津中学校、高津

愛育会連合会とが連携し、市道「松ヶ丘浜寄線」の通学児童・生徒の安全確保について、歩道の設置・減速対策についての要望書を市長に届けた。市長からも前向きな回答をいただけ、12月には実証実験が行われた。来年の夏頃には工事が完了する計画で現在進められている。



#### ◆つながり部会

- ・昨年から高津公民館が飯田の農家の協力のもと、試験的に「もったいない市」(B級野菜を農家さんが低価格で販売)を毎週行っていたが、令和4年から、つながり部会が引き継ぎ「ありがた市」として新たなスタートを切る予定としている。
- ・現在、3月20日(日)に、つろうて子育て協議会主催事業「ひとまるつながりマルシェ」が予定されており、つながり部会は共催として事業参画することになっている。このマルシェで、ありがた市を出店する予定としている。

#### ②活動の成果及び効果

##### <全体として>

- ・今後も、出来る事から取り組み、中長期的に高津全体の地域課題解決を目指していく。
- ・情報発信・住民周知は、今後も丁寧に行っていきたい。また、来年度はコロナも落ち着くことを願い、目に見える活動でも周知していきたいとも話されている。

##### <部会として>

#### ◆歴史・伝統文化の薫るまち部会

・地域の子ども達为中心となり、萩・石見空港マラソンにて和太鼓で地域とランナーに元気を与えた。今後も、継続していくことを目指し、来年度は本来の事業目的であった、ホーランエーの船出前に活気づけ・祭りの盛り上げを目標にしている。

・ふるさと教育デジタルアーカイブ事業を行うにあたって、情報を収集・保存するための機材を購入。また、事業を進めるにあたって、まずは部会員が知識をつけ、スキルアップすることが必要だと部会で話され、県立大の専門家の方と繋がる事が研修会を行ってもらった。今後について現時点では、地域に散在する貴重な、歴史伝統文化遺産、伝統芸能等の無形遺産をデジタル化して記録保存していくことが当面の作業になるだろうと話されている。

・永く放置されていた石臼を掘り出し新たな台座に据え替え、説明版を設置した。改修工事を行い、案内板を設置したことにより、地域住民に関心をもってもらえるようになった。1月19日に地域住民に対して現地説明会を行う予定だったが、コロナ感染拡大により延期となった。改めて、現地説明会を行う予定としており、今後は生徒・児童へのふるさと学習への活用もしていきたい。

将来的に、この蠟座もデジタル化していく。

#### ◆安全・安心なまち部会

- ・児童の通学路の危険除去作業を行なったことで、子ども達が安全で安心して通学できるようになった。また、今後も再度同じことが起こらないよう注意しておく必要はあると話されている。
- ・持石・三里ヶ浜の交差点付近に防犯カメラを設置する事ができた。今後は、地域の方の見守りに加え、防犯カメラでの見守り・危険の抑止力等になり、住民が安心して暮らせる環境づくりに役立つ事に期待する。住民周知として、別添チラシを各戸配布した。

#### 4. 残された課題と今後の提案

- ・情報発信の徹底・住民周知
- ・今後も部会でしっかりと協議し、役員会で3部会の活動内容等を共有しながら事業を進めていく。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

万葉の里高津未来の会が設立されて1年が経とうとしています。今年度もコロナ禍ということもあり、目に見える活発な活動が行いにくい状況ではありましたが、目の前にある課題に対し、出来る事から取り組み、地域と向き合っ活動できた1年だったと思います。これからも、役員・部会の皆さんが中心となって協議し、試行錯誤しながらも活動していきたいと思います。来年度は、この会そのものや、活動をどう知ってもらえるか、どう関わってもらえるかも考えながら地域魅力化応援隊員として、万葉の里高津未来の会の事務局として考え、仕掛けていけたらと思います。そして、地道に活動し、会と共に成長していきたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 尼子 達夫

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

安田公民館

2. 配置年月

平成27年5月から

3. 活動の概要

① 活動の内容

・平成29年3月18日に臨時総会を開催し地域自治組織を立上げ、平成29年4月24日(日)総会を開催し「地域自治組織安田地域づくり協議会」を設立、平成29年5月18日に自治組織として正式に益田市の認定を受けました。そして、平成30年5月1日付けで一般社団法人化し、平成30年5月24日に安田地域づくり協議会の財産の寄付を受け一般社団法人安田地域づくり協議会として再出発しました。

・令和3年6月16日一般社団法人安田地域づくり協議会総会を開催しました。令和2年度(第三期)の一般社団法人安田地域づくり協議会の実績及び決算報告、監査報告、令和3年度(第四期)の一般社団法人安田地域づくり協議会の事業計画案及び予算案について協議し承認可決しました。

・今年度の取組は、前年度同様に「やすだ村ええもん市」「史跡遺跡整備」「環境整備」「地域内買物支援」の非営利事業と、営利事業の「地域お助け隊」「パンカフェはあと運営」事業を予定しましたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため「やすだ村ええもん市」は7月、10月、12月の3回共、中止しました。「パンカフェはあと」は開業以来4年目を迎え、順調に営業してきましたが、委託先事業者の都合により令和3年12月25日で閉店することになりました。その他の非営利事業については例年通り行っております。

『やすだ村ええもん市』事業

安田地域で生産された農作物、手作り品、加工品などの販売を通して農産物の生産、加工、独自商品の開発などを行い地域住民の生き甲斐づくりと地域活性化を図ります。今年度も7月、10月、12月の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス蔓延防止のため全て中止としました。その代わりに規模を縮小して野菜を中心とした土曜朝市を月に一回石見津田駅で9時30分から11時まで開催しています。開催日はR3年4月24日、5月中止、6月26日、7月24日、8月28日、9月25日、10月23日、11月27日、12月25日、1月22日、2月26日、3月26日の11回でした。



### 『地域お助け隊』事業

地域の高齢化が進み、作業が困難な住民に代わって有償で草刈り・伐採作業を代行する「地域お助け隊」を結成して7年目となり知名度も上がり安定して需要があります。地域住民が安心して暮らせる環境づくりと作業従事者の生き甲斐づくりに貢献しています。現在登録作業従事者は、男性17名、女性5名、令和3年4月から令和3年12月までの受注件数は96件、うち草刈伐採作業が57件、庭木剪定作業が31件、墓掃除4件、その他4件です。



### 『史跡・遺跡整備』事業

旧山陰道、丸山公園の整備を行い、歴史の伝承事業に取り組み保存してきた先駆者たちの業績を周知する事で、地域の方に安田人としての誇りを持たせます。旧山陰道と丸山公園の草刈を2回実施しました。木部境～津田峠橋、寺町～鹿田峠、大和ゴム～東町境、丸山公園の4地区で作業しました。

第一回目 R3年6月27日(日) 7:00～9:00 参加者: 37名

第二回目 R3年10月17日(日) 7:00～9:00 参加者: 37名



### 『地域環境整備』事業

地域の環境美化をすすめ、住民が明るく快適に暮らせる環境を守ります。



### 『パンカフェ運営』事業

石見津田駅内の「パンカフェはあと」は、平成 30 年 4 月オープンから皆様に愛され 4 年目を迎えましたが、委託先事業者の都合により令和 3 年 12 月 25 日で閉店しました。しばらくの間休業を頂き、次の委託事業者の方の準備が整い次第、営業再開となります。

この「パンカフェはあと」は、石見津田駅舎を改築した店舗と設備一式を「一般社団法人安田地域づくり協議会」が益田市から借り受け、パンカフェ運営を個人の方に委託しているものです。



島根県立大学生 Relie のグループの皆さんが、フリーペーパー作成のための取材に来られました。



### 『地域内買物支援』事業

移動手段を持たない高齢者などの買物困難者のために、梅寿会とひれふり苑の介護施設の車で職員さんが、地域のボランティアスタッフ数名と一緒に毎月第二、第四水曜日に地区内のスーパーでの買物をサポートして下さっています。地域の皆様からは感謝の言葉を戴いています。現在の希望者は津田地区の方のみですが、今後は高齢化と共に希望者が増えてくると思われます。



#### ② 活動の成果及び効果

各事業の取組について、「やすだ村ええもん市」事業は、新型コロナウイルスの終息が見られず蔓延防止のため、7 月、10 月、12 月の年三回開催を前年同様に中止しました。それに代わるものとして 4 月 24 日（土）から 5 月を除いて毎月末土曜日 9 時

30分から11時まで石見津田駅で小規模な野菜市を開催してきました。地域住民の皆様は開催を心待ちにしておられ毎回喜んで頂いています。「地域お助け隊」事業は、受注件数、収入金額共に前年度と同水準で推移しています。継続的に依頼される方が増えており、信頼して頂いていることが実感できます。また、作業に従事して下さるメンバーにとってもアルバイト収入となり、生き甲斐づくりにも貢献しています。今後も草刈、伐採作業等の依頼は高齢化と共に増加していくものと思われます。「史跡遺跡整備」事業は年二回6月と10月旧山陰道、丸山公園の草刈作業を地区の皆さんに参加して頂いて行っており、当地区の恒例行事となっています。「環境整備」事業は遠田川、嶽川の草刈と海洋漂着物の回収を行っています。最近では海水面の上昇の為に河川の水位も上がり河川内の草刈作業の回数が減ってきています。「パンカフェ運営」事業は平成30年4月1日開業以来4年目となりました。開業当初から営業を委託していた「パンカフェはあと」さんが、個人的な都合で12月25日をもって廃業されました。その後は新しい方が引き続きパンカフェを営業されます。

「地域内買物支援」事業は毎月第二、第四水曜日の二回の実施ですが、移動手段を持たない高齢者などの外出の機会づくりと皆さんと語り合える場となっています。

また、公民館事業とタイアップして8月21日に開催した津田海岸での竹灯籠イベント、11月20日（土）から12月26日（日）間の安田公民館でのイルミネーション点灯イベントにも準備段階から参加協力しました。

#### 4. 残された課題と今後の提案

後継者の育成は依然として重要な課題です。平成29年4月に任意団体としての自治組織安田地域づくり協議会を立ち上げて四年、平成30年5月に一般社団法人安田地域づくり協議会を設立して四年経過しようとしています。スタッフはそれぞれ歳取っていきますので、いつまでこの状態を続けていけるのか心配です。「地域お助け隊」の作業スタッフはほとんどが60歳代以上ですが、最近では20代後半の若い人の加入があり喜んで頂いています。「パンカフェ」の営業は新しいスタッフに代わり令和4年2月より営業再開を予定しています。以前より更に魅力的で充実した商品展開で、地域の皆さんに喜んで戴ける店づくりを目指します。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員として地域自治組織の支援をして七年が経過しようとしています。地域自治組織の収益事業は「地域お助け隊」事業と「パンカフェ運営」事業があります。「地域お助け隊」事業では、作業従事者の高齢化や熱中症対策もあり夏場の作業は原則的に半日とするよう心がけています。お陰で故障者もなく、事故も無く一年を過ごすことが出来ました。メンバーが足りない時には作業を手伝います。まだ体力的には自身があるつもりです。地域の皆さんがより安心して暮らしていけるよう、もう一年間地域の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

鎌手地区

2. 配置年月

令和3年4月から

3. 活動の概要

①活動の内容

- ・第2回定期総会の実施
- ・役員会の実施
- ・地域自治組織座談会への参加
- ・かまて地域づくり協議会だより、No.9～No11の発行
- ・思いやり部会
  - 「お助け隊」、草刈り事業及び唐音水仙公園駐車場誘導の継続実施  
小学校、公民館の草刈りボランティア実施
  - 「移動困難者の支援を考える会」買い物支援バスの試験運用
  - 「鳥獣対策研究会」鳥獣対策に関する講習会の実施
- ・ひとつづくり部会
  - 「子ども110番マップ」の配布
  - 「見守り活動」防犯カメラの設置に向けた調査活動  
令和3年10月、「民宿とみ」にて設置式を開催
  - 地域住民の交流を目的とした企画「マナビーヤ」の実施
- ・魅力づくり部会
  - まちづくり活動特別補助事業  
『魅力体験「Kamate」～春夏秋冬、子どもから大人まで外遊び～』の実施
  - 「coffee work shop」の継続実施  
北仙道きんさい市、MASUDA まちなか演奏会でのコーヒー販売
  - 高島調査の実施
  - ユタラボ主催、「ミライツクルプロジェクト」に講師として参加

②活動の成果及び効果

《思いやり部会》

昨年から継続しているお助け隊の草刈り事業は、リピーターのみならず、新規のお客様からの依頼も増えており、年間で約80件の依頼を請け負った。依頼の内容は草刈りのみに留まらず、立木の伐採、墓掃除など、地域住民の「困った」を解決するべく様々な問題を解決している。依頼をした地域住民からは「とても助かった」、「今後もお願いしたい」等の声を多くいただいております、次年度以降も安定した事業として継続することが可能だと考えられる。

移動困難者の支援を考える会にて実施した買い物支援バス試験運用では、買物に行きたいが移動手段の無い地域住民を募り、月に2回程度、社会福祉協議会のバスを借りて地元のスーパーへと買い物に向かった。コロナウィルスの感染状況を鑑みて細心の注意を払い、時には中止したこともあったが、利用された方々からは概ね好評だった。運用規定を作成し次年度から正式に運用する予定。

鳥獣対策研究会は長らく活動できていなかったが、12月に島根県農林水産振興センターと益田市農林水産課より職員の方々を招き、鳥獣被害に関する講習会を開いた。講習会で教わったことを参考に、方針を定め協議を進めていく予定である。

<移動支援バスにて、検温と消毒をする様子>



<鳥獣対策講習会の様子>



#### 《ひとづくり部会》

昨年作成を始めた「こども110番マップ」が完成し、鎌手小学校、及び協力してくれた地域住民の方々へ配布を行った。また、見守り活動の一環として行っていた防犯カメラの設置に向けた調査に関して、鎌手連合自治会、鎌手駐在所、益田ライオンズクラブ、民宿とみ（敬称略）のご協力により、無事設置することができた。

地域住民の交流を目的とした企画、「マナビーヤ」では、地元の小学生と大人が集まり、冬休みの宿題等の勉強、息抜きを兼ねた運動やボードゲームを行った。大人からは、「普段関わる機会のない子ども達に勉強を教えたり、一緒に遊んだりすることができて、いい刺激となった」といった感想が得られた。

<防犯カメラ設置式の様子>



<マナビーヤの様子>



### 《魅力づくり部会》

特別補助金を申請して行った『魅力体験「Kamate」～春夏秋冬、子どもから大人まで外遊び～』では、鎌手の自然の魅力を体験しながら、多世代交流を図った。なかでも、水上スポーツのSUPと海釣り体験は参加希望者も多く、地元の新聞紙にも記事が掲載されるほど人気を博した。

昨年から行っている「coffee work shop」も、コロナウィルスの情勢を様子見ながら実施し、地元や他地区でのイベントにも参加してコーヒー販売を行った。何度かコーヒー販売をしている内に、今後の課題や、さらなる改良点なども見つけることができ、次年度の活動に向けて少しずつ協議を進めていく予定である。

昨年度から継続して活動してきた「魅力マップ作り」に関して、今年度の中旬によろやく、予定していた場所をすべて見回ることができた。マップ作成のための絵師とも話を進め、次年度にはデジタルマップとしてではあるが、完成する予定。

<SUP 体験会の様子>



<きんさい市でコーヒー販売する様子>



#### 4. 残された課題と今後の提案

地域づくり協議会が結成されて2年目となったが、コロナ禍が続くなか、それぞれが今できることを捻出し、工夫しながら活動できた1年だったと思う。

残された課題としては、思いやり部会、中でもお助け隊の現在主力となっている方々はみな高齢であり、今後活動を継続していく中で遠からず限界がやってくるのではないかと危惧している。人づくり部会は人数が少ないこともあり、他の部会と比べ主だった活動ができていなかったが、今年度新しく企画を立ち上げ実行することができたので、今後もそれを継続させるべく計画を練る必要がある。魅力づくり部会は今年度特別補助事業を行ったが、次年度以降も継続するにあたり、他の活動とのバランス配分を考えながら実行する必要がある。

現在、各部会それぞれの目標を概ね達成し、おおよその活動が軌道に乗り始めたと感じられる。今後の提案として、部会間の横のつながりを強め、それぞれの部会が単独ではなく、協力してできる事業や活動を考えていけば、今以上に地域にとって魅力的な自治組織になるのではないかとと思う。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

自治組織としては2年目の活動となるが私個人としては初めての業務であり、右も左もわからないことだらけで不安な気持ちから始まった1年であった。しかし、前任の方が作り上げた地盤がしっかりしており、地域の方々も快く受け入れてくれたおかげでとても心地よく地域に尽くすことができたと思う。

地域づくり協議会としては、これまで構想の段階であった多くの企画を実現し軌道に乗せることのできる1年だったと思う。次年度以降は、この軌道から外れることなく、さらなる発展を目指し、創意工夫を凝らしながら活動していった欲しいと思う。

私個人としては1年という短い期間ではあったが、今後も鎌手地区がより良い町になってほしい、そう思えるような1年であった。

鎌手地区と、かまて地域づくり協議会の活躍を心より応援するばかりである。

## 種地区

地域魅力化応援隊員 氏名 有田 学

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配置部署

種地区 種公民館

### 2. 配置年月日

令和3年4月12日より

### 3. 活動の概要

#### ①活動の内容

##### 自治組織

#### ◆ 災害対策部会

5月22日 第1回役員会・部会

12月2日～3日 第1回種地区地域防災講習会

3月17日 第2回種地区地域防災講習会（予定）

#### ◆ 高齢者・子ども支援部会

4月8日 通所型サービスB（住民による支援）開始

毎月毎週水曜日 高齢者サロン開催（開催多数なので省略）

5月22日 第1回役員会・部会

9月27日 雪舟記念館見学（高齢者サロン）

10月21日 アクアス見学（高齢者サロン）

11月26日 匹見上視察研修

#### ◆ 定住対策部会

5月11日 第1回役員会・部会

3月10日 建設部建築課による空き家出前講座（予定）

#### ◆ 農業振興部会

5月22日 第1回役員会・部会

9月10日 麦刈り

10月5日 農薬散布用ドローン視察

11月30日～「種だより」「ふるさと便」発送

#### ◆ 役員会

5月22日 役員会（各部会長も出席）

・総会について

・コロナウイルス感染症における地域活動について

#### ◆ 総会

6月20日～25日 書面表決のお願い（代議員）

## その他

### ◆ 明誠高校キャリアサポート

5月19日	第1回	初顔合わせ（打合せ）
6月30日	第2回	種地区を知ってもらう（神社・松永牧場 等々）
7月 8日	第3回	スローガン決め 等々
7月14日	第4回	今後のスケジュール決め 等々
8月27日	第5回	ピザ窯掃除・校庭の清掃作業
9月 9日	第6回	中井シェフ（ナポイオーナー）指導
10月 4日	第7回	ピザ窯で調理テスト
10月13日	第8回	地域の方々とのふれあい（スポーツでふれあい）
10月20日	第9回	地域の方々とのふれあい（食でふれあい）
10月28日	第10回	餅つき、松永牛BBQ（直会）

## ②活動の成果及び効果

### 自治組織

#### <災害対策部会>

自主防災組織を設立したので、しまね防災士会との協力のもと「種地区独自の地域防災マニュアル」を作成する為、動き出した。

12月2日～3日には、エネ庁との連携でしまね防災士会協力のもと、「地震」を専門分野としている大学教授を招き、地域自治組織の災害対策部会員を中心として、昭和58災を経験された方々

や地区社協、民生委員、郵便局長等々にも呼びかけ講習会を開き、座学とフィールド調査を行った。第二、第三回と開催し、「種地区における防災マニュアル」を完成させる。その後、避難誘導訓練と防災啓発活動も行う。

反省会では、大雨の状況下ではないので意識が薄い、公道から家までの移動距離があるので四輪駆動車などでなるべく家に近い所での誘導が必要などの意見が出た。



#### <高齢者・子ども支援部会>

生活輸送事業としては令和2年4月より益田市介護予防・日常生活支援総合事業訪問型サービスD実施団体として活動を開始し、令和3年4月からは通所型サービスB事業も



開始した。益田市東部・中部地域包括支援センターにケアプランを作成してもらっ





た利用者さんを対象に始めたが、口コミで65歳以上の利用者さんも徐々に増えていき、今では最大参加者数20名を超えることもある。新型コロナウイルス禍ということもあり、昨年同様慎重に動き始めたが軌道に乗っている。9月と10月には、

他機関の力を借り浜田市の海洋館アクアスや市内の雪舟の郷記念館へのちょっとしたドライブなども盛り込み、今後次々と新企画を用意する。



### <定住対策部会>

第1回部会は災害対策と合同で行った。空き家調査については、今年度はストップ状態なので引き続き来度へ繰越しする。3月に空き家出前講座を実施予定。

### <農業振興部会>

12月、種出身者への「種だより」、まなびや工房による「ふるさと便」の発送。その後の部会に於いて水田用水路の修繕、未耕作地の草刈りについての話し合い。ドローン調査・鳥獣対策・荒廃地解消活動・後継者担い手育成などについては、昨年同様4～5年の長いスパンで考える。



### <役員会>

5月22日、収支予算案・事業計画案についての方向性の共有を図った。総会（書面表決）にて周知決定。

- ・訪問型サービスD生活輸送委員会について
- ・まちづくり活動特別補助金について協議
- ・コロナ禍における地域活動について協議



### その他

#### <明誠高校キャリアサポート>



生徒は男子4名、女子1名合計5名の構成で、初回の自己紹介では少し恥ずかしさもあったが、堂々とした話しぶりで驚いた。のが第一印象だった。今回も、ユタラボスタッフが加わ



り、地域と高校生との協働・連携について一緒に考え、視点が広がったことによってアイデアも少し広がった様におもう。また、コロナウイルス感染症予防に対して様々な配慮をしながらという難しい状況の中、夏休み中でも生徒ら独自で参加してキャリアサポの参加日数を増やし、短期間であったが公民館の訪問をしてくれワクワクした。初回は、公民館側から種地区の概要を説明し、課題と解決策を考えてもらった。2回目以降は、フィールドワークや活動を織り交ぜながらの計画を立てた。実行するにあたって少しハードな内容もあったが、前向きな明るさで乗り切った。高齢者との交流については、「食とスポーツから笑顔の種をまこう」という計画で進んでいき、キャリアサポートの大きなねらいと種地区らしい！と思う場面であった。地域の方から、一緒に話ができてよかった、「ナイスショット！」と若い子らに声をかけられ、嬉しく、まだまだ現役でグランドゴルフが出来る！などの感想を聞くことができた。キャリアサポートは地域に元気とやさしさを吹き込み大成功に終わったと感じている。



#### 4. 残された課題と今後の提案

・災害対策部会・・・自主防災組織については、今回「地震」を想定で進めている。昨年末から長期に渡り僕が療養で休暇した為、途中までの構想が実行出来ずにいるので、これを次年度事業にし、開催する。特に「高齢者のみ世帯」の避難誘導を想定した訓練を実施しようとする。Team しまね防災士会（代表：有田学）の協力で「種地区における独自の避難防災マニュアル」を構築していく考え。今後年1回は何らかの訓練を実施する予定。

・高齢者・子ども支援部会・・・今年度も、生活輸送委員会では「通所型B」と「訪問型D」との両輪で進めていき、各月の毎週水曜日開催のスケジュール決めを考えていき、行政や関係各所の協力を今後深めていきたいと思っている。

・定住対策部会・・・前応援隊員が作り上げていた「空き家調査」を引き続き活用し、作りあげ、都市部へアナウンスを考え、Iターンに力を入れてみたいと考えている。その為には、「地域の魅力」を少しテコ入れしたいと考えている。まだまだ種地区には可能性があると感じている。そこを次年度に持ち越しする。

・農業振興部会・・・課題の一つの「荒廃農地解消」については、水田用水路の修繕・未耕作地の草刈りが一歩進んだ。今回、用水路の底面への修繕も進み、春からの稲作に改善された。そして担い手育成については地区内だけでは難しいところがあり、新しく開拓が必要の為、「いわみ農援隊」（代表：有田学）などとタイアップし、「担い手の募集」や「関係人口・交流人口」などからも都市部からの農業への参入などへも力を

入れていきたいと考えている。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

この1年は、介護予防訪問型サービスDと明誠高校キャリアサポートが主な活動の軸になったが、まずは、僕の今までの経験と採用試験でも言ったが「地域を知る事」と「地域の方々を知る事」をずっとした一年だったし、これからもこれはしていく。これは絶対に財産になる。そう考えています。

コロナウイルス感染症が猛威を振るい、種公民館内でも患者が出、色々と事業や会議などが軒並み延期や中止になり、行事らしい行事ができなかった一年でした。

4月から、地域魅力化応援隊員は2年目に入るが、「地域の人」、「様子」、「問題」が少しではあるがわかるようになり、特に4月から始まった生活輸送委員会の介護予防事業に於い、高齢者との繋がりが深くなり、とても楽しくなった。高齢者サロンへの要望など聞いたり場が和んだ。やはり健康長寿には「コミュニケーション」や「笑い」「ストレスを溜めない」などが必要だなと思った。昨年末に僕が心筋梗塞を起こしてしまい、長期に渡り休暇をした際にも、地域の方は「公民館」や「応援隊員」に対して気を遣って協力していただけたし、何よりも僕への心配が絶えず、本当に嬉しかった。採用時にいろんな偉そうな事を言ったかもしれないが、僕は「有言実行」と施されたら返し返す「感謝と恩返し」がモットーなので、地域へのフィードバックをしながら地域活性化と一緒にやっていこうと思うし、願う。

## 北仙道地区

地域魅力化応援隊員 氏名 三宅 望実

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

### 1. 配置部署

北仙道地区

### 2. 配置年月

令和2年9月から

### 3. 活動の概要

#### ① 活動の内容

- ・各部の会議や役員会への参加、会議録の作成。他参加した会議の会議録作成
- ・各部会で必要に応じてのチラシ作りや各家庭へのチラシ配布準備
- ・各部会のイベントの準備やイベントへの参加、サポート
- ・交付金、特別補助金の書類作成、準備、管理など
- ・Facebook、Instagramへの投稿

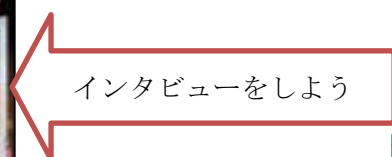
#### ② 活動の成果及び効果

##### (1) つながり部会

- ・Kita no-ma－新・北仙道小学校－

(表) Kita no-ma の開催内容、参加人数

日にち	内容	大人	子ども	合計
4/25	筍掘り	20人	8人	28人
8/6	インタビューをしよう	6人	9人	15人
10/31	デイキャンプ	30人	22人	52人
12/18	クリスマス会	11人	16人	27人
12/27	しめ縄づくり	12人	1人	13人





クリスマス会

しめ縄づくり



今年も新型コロナの影響でイベント回数も少ない状況となってしまいました。イベントを開催しても参加者が少なくなっていたため、部員の方と一緒にデイキャンプのチラシを子どもがいる家庭へ一軒一軒配って回りました。そのおかげもあってか、デイキャンプの参加者はとても多く、成果が表れたなと感じました。一方で、その後なかなか参加者が増えていないのが現状です。しかし、つながり部会の活動自体は認知度が上がってきていると感じました。

## (2) 課題解決部会

北仙活力隊による草刈り活動での収益から事務手数料として頂いたお金の処理を行ったり、依頼者の方がお金を持ってきてくださった際、領収書を準備したりしました。今年も活動自体には参加できませんでしたが、活動前に保険を掛けるやり方を覚え、サポートをすることが出来ました。依頼される方も固定化して、安定した活動になっていると感じます。



## (3) いきいき部会

### ・よめな会

大正大学の学生とのコラボで、対流促進事業のやり取りをzoomで行い、その会議のセッティングや準備などを手伝いました。無事によめな会で製造した梅干しと干し椎茸を東京で販売することができ、大正大学の学生が頑張って販売してくれたので、送った商品はすべて完売となりました。また、よめな会のキャラクターも大学生に作成してもらい「乙子挟ヨメナ」(おとごさ よめな)の新パッケージやトートバッグや旗なども作ってもらいました。今まで、ナスの辛子漬けや梅干しなど、年輩の方が買ってくださっていましたが、かわいいキャラクターのおかげで子どもが反応し、若い親が商品を購入してくれるということがありました。ナスの辛子漬けは好評です。



#### ・きんさい市

2年前に実験的に行ったきんさい市を、本年度はコロナの影響もあり思ったようには開催できませんでしたが、合計3回開催することが出来ました。地区外の方とも協力し合っつきんさい市を行うことが出来、とても勉強になりました。

12月最後のきんさい市では北仙道保育所の園児と学童さんに参加して頂き、きんさい市を盛り上げてもらいました。きんさい市に足を運んでくださった方々の交流の場や、新たな出会い、つながり、縁がある市になったと思います。

また、地区内で野菜などを出してくれる人が少人数ではありましたが、出品していただいた野菜が売れたことを喜んでくださっていたので、このきんさい市が少しでも生きがいになっているのではと感じました。



#### (4) 定住促進部会

##### ・地域情報の発信

昨年度に引き続き、毎月の自治組織だよりの発行や Facebook での情報発信を部会の方と一緒に行いました。また本年度から始めた Instagram での投稿も、北仙道の PR となり、少しずつ「いいね」の件数が増えています。

##### ・竹灯籠

10月31日に竹灯籠ワークショップをつながり部会と一緒にコラボでデイキャンプの時に開催しました。地域の方がたくさん参加していただき、竹灯籠を初めてやる方も多く良いふれあいの場となったように思います。

また、ワークショップで完成した竹灯籠もつながり部会のクリスマス会のイルミネーションと一緒に点灯しました。昨年とはまた違った雰囲気竹灯籠になり見に来られた方から、きれいだったという感想をいただきました。



#### 4. 残された課題と今後の提案

今年度も各部会それぞれ活動を行ってききましたが、どの部会も人手不足（部員不足）、アイデア不足など今後の課題となっているように感じます。やりたいという気持ちはあっても、人手が足りず準備が大変ということがありました。どの部会も

若い人、新たなアイデアを持つ人など新たな風を吹かせてくれるような人を巻き込んでいくことが必要ではないかと感じます。

つながり部会では、地域の方や地区外の方がもっと参加しやすいような、仕切りが低いイベントを考え、部員や協力してくださる方に負担にならないような企画を考えていく必要があるなと感じました。(なかなか難しいですが…)

課題解決部会では、部長さんが体調を崩され、事務的な部分で代わりの方がいなかった状態だったので、私が一時的ですがサポートをしました。部長さんだけに任せるのではなく、もう一人二人ぐらい事務作業ができる人がいる状態にしておいたほうが良いなと感じました。

いきいき部会では、まず人手不足が一番の課題と感じました。よめな会ではメンバーの人数が減り、もう一人仕事の都合で辞めたいと言っている方がいるため、今後の活動を行う際人手が少なくなる可能性があるため、新たなメンバーをよめな会に入れる必要があると感じました。また、きんさい市でも打ち合わせや、前日準備から人手不足で特定の人に負担がかかっている状況となっていました。きんさい市を中心として動いてくれる専門的な人が必要だと感じました。

定住促進部会では、前年度に続きパンフレット Vol. 3 や北仙道絵図に取り掛かっていますが、北仙道はこれ！といったようなブランドのようなものがないため、今後何を北仙道の魅力として PR していくかが課題だと感じています。このことは定住促進部会のメンバー内でも話し合いを進めているので、良い案が出るようにしっかりと部員メンバー他、いろんな方の意見を聞いて話し合っていけたらいいなと感じています。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、地域魅力化応援隊員として1年が過ぎ、仕事にも慣れてきたので昨年度の時よりは仕事をスムーズに行うことが出来たように思います。ですが、4部会になり各部それぞれをサポートしたいという思いがありながらも、しっかりと4部会をサポートしきれないという状態になってしまった時期がありました。この時期は本当に自分自身負担が大きく、大変な時期でした。地域魅力化応援隊員がもう一人欲しいと感じる一年でした。

その中でも、新たに学ぶことがたくさんあり各部会それぞれとても意味のある活動で、楽しくやらせてもらった部分はありました。毎月話し合いをする部会がありますが、皆でいろんなことを話し合っただけで企画していく楽しさは、話し合いの段階から参加させていただいているからこそ、イベントを行った時の楽しさ、達成感は大きく、皆でやり遂げることの嬉しさを感じます。

私自身、今後もっと周りの人たちに頼りながら楽しくサポートしていけたらなと感じました。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

豊川公民館

2. 配置年月

平成26年4月1日から

3. 活動の概要

①活動の内容

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・地域自治組織の支援（各会議・定期総会の開催、運営の支援・調整等）
- ・まちづくり活動の支援（公民館との協働、関係諸団体との連絡・調整等）
- ・第3期まちづくりプランの構想（2023～）
- ・益田市まちづくり活動交付金（申請、年度末の報告、経理等の提携業務等）
- ・益田市まちづくり特別補助金（審査会、〃）
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援（会議、運営の支援・調整、経理等）

II. まちづくり活動計画

- ・令和3年度の事業計画に沿った活動を中心に豊川らしい「ひとづくり・地域づくり」を旨とした活動を実施する。
- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
  - ★とよかわ寺子屋の運営
  - ★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）
  - ★地区内外との交流
  - ★保小中の活動の支援
  - ★地域内外への情報発信
  - ★「とよかわの家」の管理運営
  - ★「とよかわゴン」の管理運営
  - ★歴史的遺産の保存
  - ★お茶プロジェクトの実施
  - ★「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営
- ・まちづくり部会（今年度、魅力づくり部会より改名）
  - ★空き家調査の継続（危険空き家等の状況把握と空き家バンクへの推進）
  - ★安心して暮らせるまちづくり（自主防災対策・鳥獣対策）

②活動の成果及び効果

I. 地域自治組織に関わる業務

- ・とよかわの未来をつくる会役員会の開催
  - : 第1回 令和3年 4月20日（火）19:00～
  - 豊川公民館にて役員10名他5名 計15名出席
  - ★ひとづくり部会、まちづくり部会の組織体制の協議。
  - ★役員会の年間スケジュール及び役員改選等協議。
  - : 第2回 令和3年 6月 3日（木）19:00～
  - 豊川公民館にて役員9名 他7名 計16名にて開催
  - ★各部会の事業計画、組織体制の見直し
  - ★定期総会の説明（次第、事業報告、決算報告概要、シナリオ等）



2年連続で定例総会は開催せず、書面表決にて対応する。

- ・第4回 とよかわの未来をつくる会 定期総会（書面表決での実施）  
：定例総会「書面表決」の結果
- ★各戸（約310戸）へ書面表決書を配布。
- ★194戸より回答、地区民の理解と協力により定例総会の議案は可決。
- ★令和3年6月30日付けをもって承認。
- ・とよかわの未来をつくる会 会議開催状況  
：今年度も新型コロナウイルスの影響もあり役員会7回、三役会2回、ひとづくり部会3回、まちづくり部会3回を開催予定。  
第2期プランに掲げた「楽しく」「子どもも大人も」「自分たちで」をキーワードに住みよい豊川に繋がる活動を展開する。
- ・益田市まちづくり活動交付金（650千円）  
：運営費及び事業費等、各部会の活動支援に充当。
- ・益田市まちづくり活動特別補助金（1,000千円）  
：今年度は申請なし。
- ・豊川地区つろうて子育て推進協議会の支援  
：ひとづくり部会と連携し現在2回の会議を開催。
- ★事業活動（とよかわっしょい!!・マスダひとまちカレッジとよかわキャンパス・PTCA 親子体験プログラム他）の実施及び支援。



とよかわの未来をつくる会役員会



ツリーハウスづくり（秘密基地）

## II. まちづくり活動計画

- ・ひとづくり部会（つろうて子育て推進協議会との連携）
- ★とよかわ寺子屋の運営  
英語教室をはじめとし、夏休みには自学・宿題教室、海の生き物教室、水引教室等10教室を開催、冬休みには書初め教室等を開催し子ども達の主体的な学びを深める活動を展開。
- ★中高生の活動の支援（とよかわっしょい!!）  
豊川地区の新たな拠点として中高生が主体となり自分達の秘密基地づくりをテーマに「ツリーハウス」づくりを計画。今年度内には完成予定。  
島根県教育委員会より令和3年度優良少年団体表彰を受賞。
- ★地区内外との交流  
地区内の世代間交流は小学校・公民館の各イベントを通して図れた。  
地区外の交流についてコロナ禍ではあったが「とよかわの家」を介した大学生とのワークショップや県内外からの視察を通して実施できた。
- ★「マスダひとまちカレッジ とよかわキャンパス」の運営  
ひとづくり部会及び地区の女性（通称「わハハ！」）をメインに「色んな人を

元気にしていく」企画を運営。夏には星空観察会、冬はフラワーアレンジメント教室を実施。

★保小中の活動の支援

益田東中学校の職場体験・公民館体験、ローカルプロジェクトや保小によるサツマイモ植え体験・コマ回し等を実施。「ふるさと教育」の活動を支援。

★「とよかわの家」管理運営

お試し住宅として5件、地域実習関連として9件、地域イベントの関連が6件利用あり。本来の目的であるU I ターンの促進は図れたように思う。東中の生徒や地区の方々の協力により「とよかわの家」までの案内看板を作成・設置。

★「とよかわゴンの運営管理」

百歳体操等高齢者介護予防や生活支援に繋がる事業、シニアカフェ等各イベントでの活用が図れた

★お茶プロジェクトの実施

遊休農地の活用の研究として始まった「お茶プロジェクト」では、季節に応じたお茶の楽しみ方を提案するワークショップにより今年度は茶摘み、小学生との釜炒り茶づくり等を実施。

★歴史的遺産の保存

地区の方々の協力を得ながら遺跡見学路等の階段設置。倒木処理、除草作業により環境整備や維持管理を実施。

益田市の日本遺産の取組により豊川の史跡に関する「紙芝居」を作成。

★地域内外への情報発信

HPやフェイスブック等 QR コードの利用により豊川地区の魅力を伝える為の情報発信を行う。

・ひとづくり部会

★空き家調査の継続

空き家や遊休地についての調査の継続、倒壊家屋の調査を実施。新しい空き家カルテの作成により現状把握。個別にアプローチできる物件に対しては随時対応。

★安心して暮らせる地域づくりの推進（自主防災対策・鳥獣対策）

自主防災組織を立ち上げていない自治会への防災・避難の取り決め等の有無・確認。クマ対策の勉強会を2回実施し生態、行動、現場での被害防止対策等基本的な知識を学ぶ。



「とよかわの家」案内看板



釜炒り茶づくり教室



鳥獣被害対策（クマ等）策の勉強会

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### I. 地域自治組織設立に関わる業務

今年度は自治組織設立5年目となり第2期まちづくり活動計画（3ヶ年）の中期として、これまで第1期のまちづくり活動計画3年間の取組を継続し、初年度の取組を発展させるため事業計画と合わせて、より活動しやすい組織体制へと整理、まちづくりプランに掲げた地域の将来像「住みよい豊川・住み続けたい豊川」を具現化して行く為の取組を進めている。

地域自治組織設立6年目となる来年度は、「第2期まちづくり活動計画」の後期として、各事業の実施を視野に地域課題の整理・解決、情報の共有・周知等、地域運営の仕組みづくりの充実を図り、地域のために住民が心一つにして、夢と希望を持ち活力ある「とよかわのめざす将来像」に向けた「第3期のまちづくり活動計画」に繋がる新たな一步を踏み出すための1年としたい。

## II. まちづくり活動計画

昨年度、「とよかわの未来をつくる会」では、地域の将来ビジョンを掲げた「まちづくりプラン」及び、課題解決に向けて実施計画を定めた「まちづくり活動計画」を柱としてより良い形を模索しながら取組を進めてきた。今後も将来にわたり地域住民が安心して住み続けられる環境整備の充実を図り、魅力あるまちづくりを目ざし、これまでの「ひとづくり」を中心とした地域づくりと併せて、地域を維持していく「まちづくり」の構築を図らなければならないと考えている。

### ・ひとづくり部会

地域内外や世代間の交流の機会が少なく、地域の未来を担う次世代の人材が不足している。新たにPTAをPTCA（Cはcommunity：地域）とすることで子どもに関わる活動と連携しながら地域の交流を図り、お試し居住施設「とよかわの家」を通して移住促進はもとより地域内外の交流やひとづくりの推進が必要と考える。

### ・まちづくり部会

地域住民への会の活動内容の周知やより多くの方々に参画してもらう仕組みづくりを作るため自治会長を中心に安心して暮らせる地域づくりに向けた取組を重視。より一層、地域の活性化・魅力の創出のため、空き家の活用、特定家屋の把握、鳥獣被害防止の支援を図りたい。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は上記以外の活動として、下記の「地域づくり活動」への参加・支援に取り組む。

「地域づくり活動」では、地区のイベントをサポートとして地域の現状把握もあり、各種イベントの参加、独自のパソコン教室「パソコンカフェ（月2回）」の開催。「とよかわの未来をつくる会だより（隔月発行）」を作成。

今後も「まちづくり活動計画」の各事業の進行、実施がスムーズに運ぶように各部会と連携し事務局としてサポートして行きたい。

早いもので、豊川地区に配属されて8年が経ち、地域の中心となって働きたいという理想を持ち始めている。応援隊員制から地域マネージャー制への移行も進み、今後のあり方について行政の考えが見えない部分もあり多少の不安もあるが、これからも地域の為に協力できればと考えている。

地域自治組織の運営に際し、地区の方々の惜しみない協力を頭が下がる。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

真砂地区

2. 配置年月

平成27年8月

3. 活動の概要

① 活動の内容

自治組織役員会・各部会・その他各種実行委員会、協議会等の会議に関わる日程調整・案内、次第・資料の準備、及び当日の会議録作成、総会開催に関わる一連の業務、各部会のイベント開催支援、公民館との連携、各種研修会参加、及び他主体に関わる以下の業務。

ア) 交流拠点「ひら山のふもとカフェ tele-glue (てれえぐれえ)」運営  
施設維持管理、及び地区内外からのイベント企画や周知等の支援。

イ) 複合施設建設関係業務

令和2年度末の真砂中学校再編閉校に伴い跡地に建設が予定されている小学校を含む複合施設に関して、令和2年7月に真砂地区学校施設耐震協議会から一切の業務を自治組織が引き継いだことから、施設建設に関わる市担当課との協議や、住民説明会等の周知、管理運営準備委員会の立ち上げ業務に関わった。

ウ) 複合施設管理運営準備委員会の事務局業務

複合施設入居団体の代表者に声がけし、施設管理運営準備委員会を令和4年2月2日に発足。事務局として、会議録の作成、住民ボランティア募集のチラシ作成業務等に従事。

② 活動の成果及び効果

ア) 交流拠点「ひら山のふもとカフェ tele-glue (てれえぐれえ)」運営

令和2年度は、前年に引き続きコロナ禍による影響はありつつも、11月から、新たに毎週火曜日に市内の岡山指圧院さんの出張マッサージが開始され、それに伴い同曜日開催の既存の「早朝モーニング喫茶」の営業時間も延長された。

また、(有)真砂や、真砂保育園によるオンラインイベントの会場としての利用や、市内の(一社)ユタラボのイベント会場となる等地区内外の施設利用者の増加につながった。



#### イ) 複合施設建設関係業務

令和 4 年春から開始される複合施設建設に向け協議を重ね、入居予定団体（小学校、公民館、連合自治会、暁ほほえみ福祉会）へのアンケート調査を経て、2月2日に複合施設管理運営準備委員会を発足する運びとなった。

また11月15日には、真砂まるごとフェスタのプログラムの最後に、小学生を主とする子どもたち向けに複合施設の説明会を実施し、より多くの地域の方に周知を図ることができた。

#### ウ) 複合施設管理運営準備委員会の事務局業務

第1回準備委員会にてお互いの現状と想いを把握できた。今後は地域住民ボランティアを募る流れとなった。

### 4. 残された課題と今後の提案

コロナ禍2年目ということ相変わらず動きづらい1年でしたが、そろそろ必要最低限の感染防止策はとりつつも、弊害の方が上回るのであれば強行する判断も持たねば地域の衰退は加速度的に進むばかりだと懸念しています。

また今春から、いよいよ12月の完成に向けて複合施設の建設が始まりますが、何もしなければただの立派な大きな箱ができるだけです。

2月に施設管理運営準備委員会を発足し、さらに今後住民ボランティアを募りますが、施設完成までに、いかに一人でも多くの住民と想いを共有し、将来を見据えて関わってもらえるかが有効な施設活用の鍵になると考えています。

### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は、感染症に配慮して活動しながらも、未だ終息の兆しが無いこの騒動と今後上手く付き合っていくために何ができるのかと悶々と思索する一年でした。この世界規模での大問題は、おそらくこれまでの諸々のやり方では人類はこの地球上で生き続けることは出来ないという自然からの警鐘であると考えています。

今後、より深刻な社会的・経済的問題が明るみに出てくることを想像すると、悠長にこれまでの「地域づくり」をしている余裕はなく、地区内や家庭レベルでの食糧自給率を上げていかなければ生き残れないと思っています。

幸いにも真砂地区では、ほとんどの高齢者が稲作や野菜づくりを主な生業としており、またこれまでの「食と農」を中心とした地域づくりにより知識と経験が豊富に蓄積されています。これらを次の時代にあわせて上手く変容し、あるいは人と大地にやさしい戦前の自然農法の良さを今一度見直し、それを確実に次世代に繋いでいくことを積極的にしなければならない時期がきていると感じています。

具体的には、種の保存と共有、そしてより地球環境に配慮した真砂式の無肥料栽培の土づくりと若者世代への継承です。それらが複合施設の敷地内に設置を予定している「農業公園」で可能となるよう、発案者としても地区内外の可能な限りの叡智を集結し、実現に向けて動き始めたいと思います。

地域魅力化応援隊員 氏名 大畑 咲絵

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
西益田地区

2. 配置年月  
令和元年6月から

3. 活動の概要

①活動の内容

西益田まちづくりの会 スローガン

“一人ひとりが輝く いいまちにしますダ！！”

「西益田に住むわたしたち一人ひとりが、役割を持ち、輝き、

いいまちにしていきたいと思います。」



◆運営委員会

- ・「西益田まちづくりの会」の全体運営、重点項目の推進
- ・4検討委員会の活動の確認及び、統括、アドバイス等
- ・いろいろな地域団体や実行委員会との連携、役員での参画
- ・手作りイルミネーション実施の支援
- ・広報活動（イベント等を活用した宣伝、SNSでの発信、たよりの発行など）
- ・まちづくり活動特別補助金の最終統括



◆地域振興検討委員会 “つながりのあるまちにしよう”

- ・地域イベントを通して、人の「つながり」と「親睦・連帯感」を培う。
- ・住みよい西益田にするために、自然、文化、場所など、何でも活用する。

○活動計画

賑わいの創出・文化の継承 … 賑わいの創出について検討する

拠点づくり・資源の活用 … 住める空き家の情報を収集・整理する

◆次世代育成検討委員会 “ご縁を未来へつなげよう”

- ・各世代をつなぐ企画（取組）をして、豊かな文化や体験や人の思いを受け継ぐ。また、新たな取組も始める。
- ・交流（ふれあい）で「つながり」を深める。（縦・横・団体組織間の関係）

○活動計画

世代間交流・世代間リレー … 世代間交流を促す提案

地域の輪づくり … 世代間のつながりの調査

- ◆地域福祉検討委員会 “声を掛け合って支え合おう『つろうて幸せに！』”
  - ・地域の方々の不便の軽減のために、「困った」に応える取組をする。
  - ・地域の「ふれあい」「笑い」をてこに、健康な心と体をつくる。

○活動計画

- くらしサポート** … くらしサポートを推進するための調査・研究
- 心と体の健康** … 心と体の健康の情報提供と推進方法の検討

- ◆地域安全検討委員会 “早め早めの行動で、あわてない安全なまちをつくろう”
  - ・安全で安心して暮らせるよう、災害、事件、事故から生活を守る。
  - ・鳥獣の被害を減らす。対策により生活を守る。

○活動計画

- 安心・安全なまちづくり** … 防災についての研究と取組み
- 鳥獣被害を減らそう** … アンケート結果に基づく取組み



②活動の成果及び効果

◆運営委員会

☆「西益田まちづくりの会」の全体運営

- ・今年度は、全体会も含め計5回の会議を行い、自治組織設立3年目の活動の統括や、4検討委員会へのアドバイスなどを定期的に行った。

☆まちづくり活動特別補助金の申請 “西益田「きらりスポット・アピール事業」”

- ・西益田地区には、高津川をはじめとした自然や、旧山陰道や向横田城址等の名所旧跡、いかだ流しやウォーキング等の活動スポットなど、様々な「きらりスポット」がある。それらを絵地図に落とし込み、大看板、アルミパネル、ブックレットを作成し、地域住民のふるさと愛の醸成や、西益田のよさを地区内外の人へアピールした。今後は、小中学校のふるさと学習や総合学習で活用してもらい、児童生徒の児童生徒の地域理解に役立てていきたい。

☆「手作りイルミネーション」実施の支援

- ・今年度も地元の中学生に参加を呼びかけ、地域の方々との交流を楽しみながら活動に取組んだ。西益田の冬の夜に彩りを添えるイルミネーションを地区の方々には毎年楽しみにしておられ、今年は特に地区外からの来訪者も多くみられた。

☆地元の小学生と一緒に「西益田の未来」を考える

- ・西益田小学校6年生の総合の授業に参加し、“西益田の未来のイメージ”を実現するための提案を、具体化に向けて子どもたちと一緒に考えた。



#### ◆地域振興検討委員会

##### ☆「空き家情報収集プリント」の作成・配布

- ・昨年度実施した「空き家情報募集アンケート」の結果をもとに、今年度は住める空き家に重点を置いて検討を進めた。情報収集のためのプリントを作成し、地域からの情報提供を呼び掛けた。

##### ☆空き家に関する出前講座の検討

- ・市の担当課と意見交換をしながら検討したが、内容や対象者を踏まえたうえで現時点では保留とした。



#### ◆次世代育成検討委員会

##### ☆「西益田 灯火祭」の開催

- ・“地域のために何かしたい”という中学生の思いで昨年からはまったこの取組。今年の中学生は“つながりをつくりたい”とさらにパワーアップして受け継がれた。6月から横田中学校の生徒の有志と協働で進めていた竹灯籠企画「西益田 灯火祭」を11月に開催した。企画会議には中学生も参加し、大人と一緒に企画を作り上げた。当日は小学校や保育園、福祉施設、地域の方々など多くの方に作成協力いただいた竹灯籠約1,500本を展示した。特に、今年のメインでもある鞠灯籠は、幻想的な空間を生み出し、約800人の来場者に楽しんでいただいた。このイベントを通して、昨年よりも更に多くの人との「つながり」を創出することができた。



#### ◆地域福祉検討委員会

##### ☆「あなたの困りごとアンケート」の実施

- ・昨年度作成した原案を見直し完成したアンケートに、個包装のマスクを付けて全戸へ配布した。アンケートの配布枚数は1,343枚、回収枚数は677枚、回収率は50.4%で、地区の様々な課題が見えてきた結果となり、今後へ向けての良い資料となった。





## ◆地域安全検討委員会

### ☆防災学習会の開催

- ・外部から講師をお招きし、「自主防災組織の結成と活動」についてお話しいただいた。今回の学習会では、「地域活動がしっかりできるということが、災害に強い地域社会を創り出す」とアドバイスをいただき、地域イベントや行事などに積極的に参加し、つながりや交流を深めることが「防災」にも活かされるということを学んだ。

### ☆交通安全ベストの製作

- ・今年度から、交通安全についても検討していくこととなり、地域で見守り活動等をしておられる団体や個人を対象に、お揃いのベストを製作した。みんなが同じものを着用して活動することで、子どもたちにも安心感を与えることができ、西益田地区の一体感が生まれた。



## 4. 残された課題と今後の提案

- ・西益田まちづくりの会という組織が、まだまだ地区内に浸透しておらず、一体どういう活動をしているのか…という声が地域から聞かれることがある。毎月たよりは発行しているが、どれほどの人の目に触れているか定かではない。今後は目に見えない活動に加え、目に見える活動（お助け隊や草刈り隊の結成など）も検討していく必要がある。
- ・まちづくり活動特別補助金については、設立よりまちづくりの会 運営委員会が中心となって検討し、申請をして活用してきた。今後は、西益田地区の活性化と地域課題の解決に向けて地域の諸団体にも検討してもらうこととした。各地区、地域からの希望、要望があれば、まちづくり活動特別補助金の対象とし、補助金の一層の有効活用を図る。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度は自治組織設立3年目の年でしたが、コロナウィルスの影響により思うように活動ができない部分もありました。地域の大きなイベントや行事が中止になる中で、今年の中学生たちからも“地域を盛り上げたい”との声があがり、一緒に活動できたことは、まちづくりの会にとっても嬉しいことでした。まちづくりの活動が中学生にも少しずつ浸透してきているのだと実感しています。形として見える活動も大切ですが、個人的にはひとつのモノを皆で創り上げるまでのプロセスを大切にすることも、まちづくりにとって必要なことだと思っています。大人も子どもも一緒に活動することで、今まで知らなかった新たな一面を知ることができ、新たな“つながり”が生まれていくのだと感じています。

地域魅力化応援隊員 氏名 堀江宗仁

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

二条公民館（管轄：上黒谷町・桂平町・黒周町・柏原町・愛栄町）

2. 配置年月

平成29年4月1日

3. 活動の概要

① 活動の内容

平成27年6月17日の地域自治組織第1号認定より実質的活動を開始した「二条里づくりの会」は、令和2年5月17日（日）の「令和2年度定期総会」にて、「令和2～7年度 元気なむらづくりプラン Part.2」と「活動計画」（6カ年プラン）を承認し、新たな段階に入った。

その上で、基本的な

- |               |              |
|---------------|--------------|
| ㊦ 次世代を育成する事業  | ㊩ 住民をふやす事業   |
| ㊧ 高齢者にやさしい事業  | ㊪ 新たな産業を興す事業 |
| ㊨ 安全・安心な暮らし事業 | ㊫ 環境をよくする事業  |
| ㊬ 里山の環境を活かす事業 |              |

の7本柱（各種活動計画）は引き継がれ、それに沿って本会が活動するに当たり、

- 益田市より交付される「まちづくり活動交付金」の申請書作成・提出、交付決定後の請求書作成・提出、及び「まちづくり活動特別補助金」の見積書提出依頼・収集、申請書作成・提出、プレゼンテーション用PP（パワーポイント）作成、プレゼンテーション参加・説明・PP操作、写真撮影・まとめ、交付決定後の請求書作成・提出業務。
- 上記「交付金」・「補助金」入金後の会計処理業務。
- 上記「交付金」・「補助金」にて導入（購入）した備品の材料検収、及び「物品台帳」への登録業務。
- 本会の「総会」・「役員会」・「各部会」・「合同部会」開催時の案内ライン・メール送信、資料作成、開催時の説明・提案、写真撮影・まとめ、及び「議事録」・「議事要旨」の清書・押印受け回し・印刷業務。
- 「定期総会」時の「議案書」の原案作成、推敲、印刷発注業務。
- 各種事業実施時の資料作成、随時参加、写真撮影・まとめ業務。
- 各方面からの視察団受け入れ日時等の調整、資料（主にPP）作成、会場準備、随時参加・PP操作、視察基本料・資料代等の会計（入金）管理、写真撮影・まとめ業務。
- 1～2ヶ月毎に地区内全戸配付する「便り」の作成・印刷業務。
- 各種研修への参加、写真撮影・まとめ、復命書作成・提出業務。

等々に従事し、地域魅力化応援隊員としての業務と二条公民館での業務も勿論こなしている。

本会全体の本年度の活動を振り返ると、昨年度同様4月の年度初めより「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点より様々なイベント・活動等が中止となり、8月の夏場くらいまでは例年通りの活動は出来なかったと感じるが、秋口の「まちづくり活動特別補助金」の申請時期より活動が動き始め、特に11月が忙しかったと感じる。



「検温」(上)  
と「手指  
消毒」(下)

「令和3年度  
定期総会」の  
様子

(令和3年5月16日)



## ② 活動の成果及び効果

二条地区へ赴任して早や5年目となり、随分と地区住民の方々の顔と名前も一致し、かなり冗談も言える間柄になったと感じている。

1年目の「規約改正作業」、「視察受け入れラッシュ」と「平成29年度 中国四国地域鳥獣被害対策 優良活動表彰」での岡山行き、2年目の「規約改正成就」、「ルーラルミーティング in しまね」と「平成30年度 ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰(団体表彰)」に関する「東京行きと受賞記念祝賀会準備」、3年目の「次期むらづくりプランの策定」、5年目の「旧西南中学校 跡地利用問題」の進展等、中々忙しい5年間であったと感じている。

その中で本年度は、年度初めより「新型コロナウイルス」感染拡大防止の観点より、特に4～8月期は本会の活動も停滞したように感じているが、本年度の暮らし部会の「まちづくり活動特別補助金事業 2物件」

- 「鳥獣対策事業(第2期)」・・・㉠
- 「避難所プライバシーケアアップ事業」・・・㉡

において、

- ㉠ 「バッテリー交換作業の更なる省力化」  
「更なる有害鳥獣捕獲数の向上、及び獣害の低減」  
「防除従事者の負担の軽減」
- ㉡ 「避難所での女性に対する配慮」  
「対女性、対家族のプライバシーの保護」

に貢献出来るよう申請書の作成段階より尽力したことはある意味成果であり、地区民の「安心・安全な民生の助長」に資する効果が上がったのではないかと感じている。

また、昨年度も同様の事を書いたが、平成30年度定期総会での「規約改正」を受けての「視察受け入れ業務」、「物品の貸し出し業務」、「会計処理業務」や「議事録作成業務」等々が昨年度にも増して定着したであろうことは、地域魅力化応援隊員としての成果であり、それは「本会の後方支援(事務的業務)は、堀江に任せておけば良い」という安心感を生み、役員・運営委員の方々が安心して「前線」に出て行かれるのではという効果を生んだのではないかと感じている。



「粉炭研修会」にて  
(令和3年11月6日)



「岐阜県庁市町村課 視察団」一行と  
(令和3年11月25日)

#### 4. 残された課題と今後の提案

設立（平成26年8月30日）より「7年5カ月」、認定第1号（平成27年6月17日）より「6年7カ月」の月日が早くも過ぎ去った本会の活動の「柱」は、なんと言っても「ICT技術・IoTデバイスを活用した有害鳥獣対策」であり、今までの表彰歴等を振り返ってみても、それは「確信」である。

また、目立たないようだが、平成26年4月からの「Iターン者」の数を披歴すると、

○ Iターン者：18組40人（転出：3組10人、現住者：15組30人）

であり、わずか人口500人足らずの地区としては、その「数」においてもその「定着率」においても素晴らしいものがあるのではないかと感心する。それは結局、

① 「空き家」の減少促進、「UIターン者」の誘致とサポート

② 「二条ふるさと便」の継続受注と販売

③ 「親子で芋ほり体験会」等、「お試し体験古民家住宅“つどい”」を活用しての交流人口の創出

④ 「どんぐりの森づくり活動」等、次世代育成事業の展開

⑤ 調査・実施・振り返りをサイクル化した「有害鳥獣対策」の更なる進化等々の活動がそれぞれ独立したものではなく、「前後左右上下」に密接に絡み合っただけで相乗効果を発揮し、関連するものであるが故に、その結果として『二条に住みたい』と思う人々が増え、これだけの結果を残して来ているのではと感じている。

後は、これもここ数年書いていることだが、

○ 「**地域マネージャー制の採用と法人化**」

という課題である。これも本年度、役員会で何回も議論し、最終的に令和3年11月11日（木）開催の「第6回 役員会」にて、

○ 『二条里づくりの会は現在検討中であり、令和4年度の導入は予定しておらず、令和5年度以降の導入を希望している』

との結論を得、市の方へ通知した経緯がある。

本年度、「吉田地区自治協議会」の会長 大久保 稔 氏の発案で、当初の発起人会「吉田地区自治協議会・二条里づくりの会・ときめきの里 真砂」が参集・協議し、10月11日（月）に初の「自治組織座談会」なる会合が開催された。その会合後のアンケートでも1番多かったのが、

○ 『地域マネージャー制と法人化する術を知りたい』

との問いであった。

結局、かなりの地区がそのことについて「気になっている」のは確かなのであり、故に来年度、「開催時期、主催、テーマ」は

○ 「6～7月、二条里づくりの会、地域マネージャー制と法人化」  
という事で、「第2回」の座談会が開催される予定である。

また最後に、これもここ数年来の懸案である

○ 「旧西南中学校の跡地利用問題」  
がある。

本年度は、令和3年7月21日(水)に広く地区民に声を掛けての「跡地利用会議」を開催したのだが、議論紛糾の末に意見集約が叶わず、それでも先ず『教育委員会事務局に出向き、基本中の基本を訊ねて来て欲しい』という線で落ち着いた経緯があり、現在は令和3年12月16日、先方に「質問書」を提出し、「基本中の基本」を訊ねている最中である。

いずれにしても、

- 木造平屋建ての赤瓦
- 長さ60mの杉の廊下
- 木の温もりが感じられる教室
- 木枠のガラス窓
- レンガ造りのストーブ用煙突

といった特徴を兼ね備えた「校舎」は捨てがたく貴重であり、「借りる、または無償譲渡」して頂けるものならして頂きたいというのが、地区内の前向きな方々の考えであることには間違いない。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年もまた、昨年同様、

○ 「地域マネージャー制の採用と法人化」  
にはほぼ進展が見られなかった点が悔しい。

「会長の個人責任」というのは、「地域マネージャー制の採用」でもだが、例えば「会として“車”を所有し、特に高齢者の“移動支援サービス”を行なう」といった活動においても、

○ 車の名義は、会長名

○ その車に掛ける保険も、会長名義  
ということになり、結局は「会」とは名ばかりの「個人(責任)」となる。

現時点では、地域自治組織たる「二条里づくりの会」はあくまでも「任意団体」であり、何かが起こった時は、

○ 「任意団体だから、“無限責任”」  
となり、その点、

○ 「法人なら、“有限責任”」  
なのだから、その方が良く考えるのは私だけだろうか。ただ、去年も書いたように、  
○ 地区民には、後には引けない覚悟が必要となる  
訳で、道のりはこれからも厳しいものと言わざるを得ないだろう。

平成29年4月からこの二条地区に通い始めて早や5年、色々とお世話になりつつ私も持ち得る能力の範囲内でお手伝いさせて頂いたつもりである。正直なところ、推薦というか諸般の事情が許せば、私はこの二条地区の「地域マネージャー」をやってみたいという気はある。ただ、タイムリミットが近づいている気もする。

以上

## 美濃地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 大庭 真弓

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

#### 1. 配置部署

美濃地区

#### 2. 配置年月

令和4年1月から

#### 3. 活動の概要



##### ① 活動の内容

【地域の魅力化に向けた取組(★地域自治組織3部会、☆地域内協力団体)】

##### ★結い学び部会

- ・地域マップ
- ・歴史の掘り起こしと継承事業
- ・その他

##### ★てごすけ部会

- ・外出支援事業「てごすけ号」の運行支援
- ・収益事業(草刈機器の貸出)
- ・おたすけ隊事業(軽作業、草刈)

##### ★ええ出会い部会

- ・SNS勉強会
- ・LINEの活用法
- ・空き家調査
- ・その他

##### ☆ぼんぼりの会

- ・〈春〉流し鯉のぼり 〈夏〉ぼんぼりロード 〈冬〉イルミネーション
- ・その他

##### ☆ジャスミンの会

- ・景観保全活動〈ヒマワリ〉、特産品開発〈油、石鹸、クリーム〉
- ・ひまわり祭りの開催により地区内外との交流を促進



##### ② 活動の成果及び効果

- 地区内の多世代交流を目的とした催しが開かれた。
- 歴史をテーマに一貫した取組が継続出来ている。
- 環境整備することで地域の景観を保全している。
- 地区外にもPRし人を呼び込むことで地域の活性化に繋げていく。

#### 4. 残された課題と今後の提案

地域の高齢者や、若者、子供たちに呼びかけをして、安心、安全な住み良い暮らしを維持するためのまちづくりを提案し、地区全体で、地域のあるべき姿や課題等を話し合い、一緒になって、地域活動をしていくことが必要だと感じています。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員に1月に任用され、まだ間もないのでわからないことが沢山あり、中々スムーズに仕事が出来ない状況です。少しずつでも地域の皆さんとの親交を深めていき、力を貸していただきながら、「はつらつ美濃の里」を発展させていけたらと思っています。



令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署

小野地区

2. 配置年月

平成30年4月

3. 活動の概要

(1) 活動の内容

小野地区においては、平成29年3月に「夢あふれる小野の里」を設立して以来5年目を迎え、応援隊員としての活動は、同組織の活動方針に沿って事務的な支援を行った。

「夢あふれる小野の里」においては、前年に引き続き“地域づくりと人づくり”、そして“3つの部会の取組み”において事業を実施してきた。

① 地域づくりと人づくり

人材育成を進めていくために、研修会への参加や先進地視察に積極的に取り組むことを基本にすすめてきたが、「新型コロナウイルス」の感染防止によりイベントや研修会等が中止となるケースが多く、参加する機会が少なかった。

とくに、毎年参加している「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」においては、全国各地団体からの先進的な事例発表を拝聴しているが、「新型コロナウイルス」の感染予防対策を考慮して、抽選によりライブ配信での受講が可能ということであったが、今年度は参加を見送ることとした。

また、今年度は「第1次地域づくり計画」の最終年度にあたることから、次年度以降の「第2次地域づくり計画」策定に向けて、それぞれの部会議において協議を重ねた。

② 各部の取組み

【防災環境部】

防災環境部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

■ 「子ども見守り活動」の継続実施

戸田小学校児童の登下校時における見守り活動を主体的な活動内容として、昨年度から活動を開始した。

コロナ禍の中で前年度と同様の体制でスタートしたが、4月から12月までは休校等の措置もなく通常の活動が実施できた。

1月に入り市内においても新規感染者が急増したため、高学年（4年～6年生）が一





時期休校となった。

対応された隊員から危険個所や問題点等について報告をいただき、その都度学校への報告や駐在所等との協議を行った。また、「子ども達とあいさつをを交わすたびに元気をもらっている」等々の報告をいただいた。

#### ■ 啓発活動の実施

地区内全域（22箇所）に設置した防災掲示板を活用し、地区民の防災意識を高める活動として、前年度に引き続き以下の取り組みを実施した。

ア、地区内のAED設置場所を記した「小野地区AEDマップ」を掲示した。

イ、戸田小学校児童が作成した「防災標語」を掲示した。



#### ■ 「草刈り隊活動」の継続実施



昨年度から活動を開始している「小野地区草刈り隊」について、今年度も継続して事業を実施した。この事業は、家周辺の草刈り等の環境整備ができなくなり困っている世帯を対象にして、依頼者の要望に沿って作業を実施している。

今年度も昨年度並みの実績であり、地区内全体で12件対応した。

#### ■ 若者向けイベントの実施

若者の交流の場「しゃべり場」を定期的開催し、活動について協議を行った。昨年度より新たな取り組みを企画し、「灯籠の灯りで地域を明るくしよう」ということで、「灯りをともすイベント」を実施している。

今年度はコロナ禍の中で大々的なことはできなかったが、アルミ缶を使用した手作りの「缶灯籠」を作成し、12月初旬に小野公民館において、灯りをともすイベント「明るく灯そう キャンドルフェスタ」を開催した。

地区内外から多くの方が来場され、イルミネーションに合わせて、煌めく「夕暮れのともしび」を観賞された。



## 【健康福祉部】

健康福祉部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

### ■ 地区民の健康増進に向けた取り組み



地区民の健康増進向上に向けた取り組みとして、「益田市まちづくり活動特別補助金事業」を活用し、全自動血圧計やデジタル体重計等の健康機器を導入した。小野公民館内に健康チェックコーナー」を開設し、日々来館された方が利用されている。

今後においては、この機器を利用する健康教室やウォーキング等を企画し、有効的な活用に努めていきたい。

### ■ 「AEDマップ」の更新

地区内にAEDが設置されている施設等を記した「小野地区AEDマップ」を作成し、防災掲示板に掲示するとともに「たより」を通じて地区民に周知を行っている。

昨年度に続き、戸田小学校及び小野中学校の2施設について、閉所時（夜間等）でも持ち出しができるよう室外用の収納ボックスを設置した。これにより、地区内すべての設置場所に室外収納ボックスの取り付けを完了した。



### ■ 「へき地巡回診療所」の開設

本会設立当初より最大の課題であった地元への医療機関設置について、検討委員会を設置して市及び県（益田保健所）との協議を重ねた結果、令和3年9月から新たに小野公民館を診療所として、「へき地巡回診療所」が開設された。

## 【生涯学習産業部】

生涯学習・産業部においては、以下の項目について主体的に取り組みを行った。

### ■ 「おの産直市」の実施

年間3回の実施計画を立てていたが、「新型コロナウイルス」の感染拡大を考慮し、昨年度と同様に12月に1回のみ「産直市」を実施した。

・第1回 ～ 12月11日（土）

午前10時00分から11時00分

会場：小野公民館

来場者～約150名（内スタッフ40名）



「新型コロナウイルス」の感染状況も安定しており、さらに絶好の好天に恵まれ地区内外から大勢の方が来場された。出品された産物がほとんど完売する等、久しぶりに賑やかなイベントであった。

## ■ 情報発信に関する機器の導入

地区内のイベントをはじめ地域の景観等について、SNSを通じて情報を発信している。より鮮明なデータを作成・保存するため、今年度の「益田市まちづくり活動特別補助金事業」を活用し、パソコン、カメラ等の機器を導入した。

令和4年から7年にかけて、地区内3神社において25年に一度の大祭（式年大祭）が執り行われる予定であり、地域の郷土芸能や祭りの様子などを情報発信するとともに、後世につなげるデータを保存する予定である。

## (2) 活動の成果及び効果

今年度も昨年度と同様に、コロナ禍の中で計画どおりに物事が実施できない一年であった。しかしながら、現在活動を実施している源となる「第一次地域づくり計画」が最終年度となることから、5年間の取組みの総括をすること、また、次年度以降の「第二次地域づくり計画」策定に向けて、役員会や各部会議において度重なる協議を行い、繁忙な中でも充実した一年であったように思える。

このような状況の中で、それぞれの専門部会において協議を進め、主な取組みとして下記の事業を実施した。

- ① 令和2年度から実施している「子ども見守り隊」の活動を継続実施した。
- ② 令和2年度から実施している「草刈り隊」の活動を継続実施した。
- ③ 地区内にAEDが設置してある施設のうち、室外管理用の収納ボックス未設置の施設について設置を完了した。
- ④ コロナ禍の中で、時期を考慮しながら「おの産直市」を実施することが出来た。

上記4点の内容が実施できた活動項目である。それぞれの項目において多々課題は残されているが、更なる内容の充実に向けて協議・検討を進めていきたい。

## 4. 残された課題と今後の提案

「第1次地域づくり計画」の活動も最終年度となり、次年度以降の「第2次地域づくり計画」について、それぞれの部会協議を踏まえて一定の事業項目（案）を決定した。

「第1次地域づくり計画」の中で継続事項となったものや、新たな事業として組み入れたもの等、多くの課題が山積みとなっている。これを解決するために、役員をはじめ各部会員との連携を密にし、さらに地区民に状況を分かりやすく伝達して、「地域ぐるみの活動」に取り組んでいきたいと考えている。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

地域魅力化応援隊員となって、早4年目を終えようとしている。昨年同様に新型コロナウイルスの影響を受けて計画通りの取組みが出来ず、一日も早く「コロナウイルス」が終息することを願っている。

次年度から新たな「第2次地域づくり計画」に沿って活動することとなるが、今まで以上に地域の声が活動に反映されるよう、部会主流による事業展開に向けた取組みを構築していきたいと考えている。

地域魅力化応援隊員 氏名 石川 祐子

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
中西公民館
2. 配置年月  
令和2年4月
3. 活動の概要

① 活動の内容

中西地区では令和3年3月30日に地域自治組織「なかにし地域づくり協議会」を設立し、『いつまでも、いきいきと暮らし続けられるまちへ』をテーマに今年度からスタートしました。



<生活支援部会>

・交通対策

「種むらづくり推進協議会」の方をお招きして種地区で行っている高齢者生活輸送説明会を開催しました。

・なんでもお助け隊

中西ヘルスポイント制度の一環として平成27年度から本格的に活動を開始し、今年度は草刈り・庭の手入れ・病院への付き添い等を行いました。

<交流部会>

・いきいき朝市

今年度は新型コロナウイルスの影響で何度か中止にはなったが、毎月第3土曜日の7時半から開催し、地域の交流の場として皆さんに喜んでいただいております、今年で11年目になりました。

<福祉環境部会>

・不法投棄見廻り隊

会議で意見交換をし、今年度は益田阿武線（川登～二条）をパトロールし、不法投棄されているゴミを回収しました。

- ・花いっぱい運動

自治会ごとに花木を花壇や市道沿線に植栽をしました。

- ・有害動物対策

有害鳥獣駆除対策として、「動物駆除用煙火消費保安手帳講習会」を毎年開催し、イノシシ対策として地区住民へ箱罾の貸し出しを行いました。

## ② 活動の成果及び効果

### <生活支援部会>

- ・交通対策

今年度から新たに取り組み始めた事業で、移動手段を持たない高齢者の方などの交通対策として、種地区の高齢者生活輸送の説明会を部会員の方たちと一緒に聞きし、どこから手をつけたらいいのか、どういった仕組みをつくるのが中西にとって一番いいのかなど話し合うことができた。

- ・なんでもお助け隊

活動を開始して7年目となり、地区の高齢者の方にとって生活支援の一つとなっています。中西ヘルスポイント制度と連動し相乗効果も期待できます。今年度は活動自体あまり出来なかったが、庭の手入れなど数件の依頼があった。

### <交流部会>

- ・いき生き朝市

地域の方達が作られた野菜や果物、惣菜、魚などを販売し、サロンの皆さんが開催している喫茶コーナーなども子供から高齢者までの交流の場として好評となっています。また、生産・出荷することが生き甲斐づくりや収入につながり、中西ヘルスポイントの財源確保にもなっています。

今年度も新型コロナウイルス拡大防止の為文化祭が中止になったので、11月に行った朝市と同時に公民館教室の作品や地域の方、小・中学生の作品（絵・書道）を展示した「ミニ文化祭」を開催し、好評でした。

### <福祉環境部会>

- ・不法投棄見回り隊

パトロール中通行する方への啓発になるよう黄色のジャケットを着て合同パトロールを行っています。また、平時は各自治会で見廻り活動を行っていて、地域住民の皆さんの意識の高さがうかがえます。

- ・花いっぱい運動

自治会ごとに花木を植栽していただき、美しいまちづくりに力を入れています。自治会ごとに植えている花の種類なども違って、道行く人々の目を楽しませ美しい中西地区を目指します。

- ・有害動物対策

今年度は「動物駆除用煙火消費保安手帳講習会」に更新・新規の方が合わせて36名おられました。地区の皆さんの関心度は高く少しずつ取得される人数も増えてきています。

イノシシ用箱罾の貸し出しを行っています。全ての檻が継続して貸し出し中となっており、地区の方に有効活用されています。



交通対策



なんでもお助け隊



いき活き朝市  
(ミニ文化祭)



花いっぱい運動



不法投棄見廻り隊



有害動物対策

#### 4. 残された課題と今後の提案

3月に設立されて1年近く経過しますが、中西地区では自治組織が立ち上がる前から取り組んできた事業が多くあるので、それらを充実させていくとともに新たな事業を少しずつ確実に進めていきたい。特に交通支援対策は切実な問題となっているので早急に取り組んでいかなければならない事業の一つだと考えています。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

応援隊員として配属されてから早くも2年が経ちました。地域自治組織が3月に立ち上がり多少の不安はありましたが、いつも館長さんや主事さん方の助けがあり何とかやってこられたなと思っています。

部会員の皆さんも積極的に会議や説明会などにご参加くださり、色々なことがスムーズに進められたと思います。これからも地域の皆様が安心して暮らし続けられるような地区の発展に少しでも力になればと思っています。

---

## 東仙道地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 青戸 美奈子

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

---

#### 1. 配置部署

東仙道公民館

#### 2. 配置年月

平成28年4月

#### 3. 活動の概要

##### ① 活動の内容

- ・東仙道ちいき協議会全体  
全体会議、東仙道花園ライトアップ事業、東仙道プロモーション事業
- ・互助部会  
部会議、東仙道お助け隊事業 お買い物バスツアー事業
- ・地域活性化部会  
部会議、四ッ山歴史ウォーキング、ふるさとカレンダー事業、東仙道桜を見る会、運動会、文化祭
- ・福祉健康部会  
部会議、グラウンド・ゴルフ大会、東仙道寺子屋事業、みんなでパン工房（公民館共催）

##### ② 活動の成果及び効果

- ・東仙道ちいき協議会全体  
昨年度に引き続き新型コロナウイルスの影響で昨年同様に活動ができない中、文化祭などの実行委員会では、どのような方法であれば開催できるか模索し、開催に向けて準備していたが、市中感染が急増したため今年度も開催には至らなかった。

その一方、昨年度まちづくり活動特別補助金を活用し開始した「東仙道花園ライトアップ事業」では、ひだまりパークみとの桜（3月）、彼岸花ライトアップ（9月）、仙道バス停もみじライトアップ（10月）、神宝山八幡宮もみじ・鳥居ライトアップ（11月）を年間通じて行なったほか、今年度購入したドローンやアクティブカメラを使用した映像をSNSや動画投稿サイトに投稿してプロモーションする「東仙道プロモーション事業」では初年度となる今回、ドローンや動画編集ソフト

トの操作練習をした。

次年度は様々な事業や各自治会をドローンで撮影したものを公開し、希望があればDVD化もしたい。



【ひだまりパークみとの桜ライトアップ】 【ドローンで撮った四ッ山】

#### ・互助部会

「東仙道お助け隊」では、草刈りや木の伐採等の依頼が19件あり、のべ38名の隊員が作業にあたった。

困ったときに気軽に声をかけてもらい、お互いに生活をささえられるよう息の長い活動を続けたい。

また、(株)キヌヤさんの協力を得て行なっている「お買い物バスツアー」は、通常通り行う事ができた。

免許返納などの理由から新規利用者も増え、お買い物バスがないと困るとの声が寄せられている。

#### ・地域活性化部会

「東仙道桜を見る会」は美都いちご販売と持ち帰りのみの食べ物販売という縮小開催となったが、いちご100パックを完売することができた。

四ッ山歴史ウォーキング、運動会、文化祭は新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

6年目となる「ふるさとカレンダー事業」では、東仙道地区に点在する地蔵をテーマとし、カレンダーを作成中である。

出来上がったカレンダーは、広報4月号と一緒に折り込み、全戸配布する予定である。

例年多くの方から「地区外に住む親戚や友人にあげたい」との声もいただくので、今回のカレンダーも地区内外へふるさとの魅力を発信するとともに、様々な世代間での会話のきっかけになればと思う。

#### ・福祉健康部会



放課後に小学校の空き教室を利用し、地域の方に見守っていただきながら宿題を済ませて帰るという「東仙道寺子屋事業」が4年目となったが、新型コロナウイルスの影響で今年度も活動休止となった。

6月のグラウンド・ゴルフ大会は感染予防対策をしたうえで実施することができた。

昨年度開始の子育て世代交流を深めることを目的とした「みんなでパン工房」は今年度も公民館と共催で子どものみを対象に行なった。

#### 4. 残された課題と今後の提案

##### ・東仙道ちいき協議会全体

地域の代表11名が部会員として各部会に所属し、会議を進めているが、事業の運営となると公民館運営委員や各自治会にお願いしないと事業が成り立たない状態である。今後も協力を仰ぎつつ、ちいき協議会の体制、部会員構成、事業の運営方法についても引き続き協議が必要である。

##### ・互助部会

「東仙道お助け隊」について、草刈りは繁忙期が限定されているので、隊員の負担が大きい。もう少し負担を分散させられるよう、引き続き隊員の確保に力を入れたい。

また、小さな困りごとに対応できるような体制づくりについて協議していきたい。

##### ・地域活性化部会

「ふるさとカレンダー」については、写真提供者が少なく、選定も地域活性化部会員のみで行うため、狭い範囲での作成となってしまうのが課題である。

この取り組みは地域のみなさんから毎年期待の声が寄せられている。より魅力的な内容となるよう、テーマや写真選定方法等について、引き続き協議が必要である。

##### ・福祉健康部会

「東仙道寺子屋」について、見守りボランティアの高齢化、減少が課題となっているので、新しいボランティアの確保、長期休業中の開催など寺子屋事業の広がり等について協議していきたい。

「みんなでパン工房」では参加者の意見を取り入れシリーズ化して続

けていくとともに、新しい参加者の巻き込みを図りたい。

#### 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度も新型コロナウイルスの影響で、計画を進めては中止、といったことが多々あり、昨年度同様ちいき協議会としての活動がなかなかできない1年となった。

人が集まりづらい中で、どのような事業だとできるのかをもう少し考えられたら良かったが、ちいき協議会の会議ひとつにしても高齢者が多い中、オンラインでの開催はハードルが高かった。

2年連続で学校を通しての小学生対象事業が開催できなかったこともあり、地域と子どもとも距離がだいぶ離れてしまったように感じる。

来年度もまだ新型コロナウイルスの影響でこのような厳しい時期が続くと思われるので、今年度の反省を活かし活動をするとともに、引き続きちいき協議会の体制や事業の進め方、会議の仕方等の工夫に取り組んでいきたい。

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
匹見上地区

2. 配置年月  
令和3年4月1日

3. 活動の概要

①活動の内容

地域自治組織事務局、他会議議事録作成

役員会、委員会

第2回匹見上清流の郷通常総会

ポロシャツのデザイン作成、周知、販売

公民館運営委員会との研修会

☆魅力発信

- ・ 便り、匹見上清流の郷から毎月1回発行

発行月	内容
第2号 R3年 8月号	通常総会、可決の報告・委員募集呼び掛け
第3号 R3年 9月号	鳥獣駆除用煙火保安手帳 講習会の開催お知らせ
第4号 R3年10月号	カルチャー教室開催のお知らせ
第5号 R3年11月号	ポロシャツの完成・販売開始報告 きのこ狩り報告 鳥獣駆除用煙火保安講習会報告
第6号 R3年12月号	ポロシャツ販売枚数報告 カルチャー教室報告
第7号 R4年 2月号	鳥獣被害対策研修会開催お知らせ 匹見で映画を観ようかい報告

- ・ 地域資源を活かしたイベント実施  
R3年10月3日、きのこ狩り

☆支援

- ・ カルチャー教室
- ・ 百歳体操
- ・ 支え合いマップ

☆環境保全

- ・ 鳥獣被害対策研修
- ・ 動物駆除用煙火花火販売、動物駆除用煙火保安講習会
- ・ 箱貸出

## ②活動の成果及び効果

- 役員会、委員会は、毎月1回開催。R3年11月には連合自治会長との意見交換会も行いました。
- 第2回匹見上清流の郷通常総会は、R3年5月29日に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、書面決議のみとなりました。すべての議案について過半数の賛成をいただき、可決されました。
- ポロシャツの作成、販売は、ポロシャツで地域自治組織の発信だけでなく、匹見上地区全体の発信、匹見上地区に興味をもってもらえるように作りました。第2弾までの売り上げ枚数は97枚でした。  
右胸に自治組織のキャラクターを使用し、左袖と背中新たにデザインを作りました。今現在、名前を募集中ですが、積極的に地域に呼び掛けて、キャラクターに名前を付けてあげたいです。

### ポロシャツのデザイン



Hikimikami  
Seiryu no sato



右胸

左袖

背中

- 公民館運営委員会との研修会は、今年度は、R4年2月28日に、東仙道・都茂・二川地区へ視察研修を計画しています。その地区の自治組織の取り組みや活動を公民館運営委員と共に視察します。

### ☆魅力発信

- ・今年度の匹見上清流の郷から(頼り)は、匹見上清流の郷のイベント開催や研修会開催のお知らせに利用しました。

ポロシャツの販売促進に繋がったのも、便りでの宣伝の効果があったからなのではないかと思っています。

次年度は、3ヶ月に1回の発行になりますが、今年度よりはもっと分かりやすく、誰にでも伝わるように発行したいです。

- ・地域資源を生かしたイベントの実施については、新型コロナウイルスの影響で中止になったものがいくつかありましたが、唯一、R3年10月3日のきのこ狩りは、定員人数を制限し、開催することができました。

このイベントは匹見町内外から大人気のイベントです。開催できたのでとても嬉しかったです。

講師に教えていただきながらきのこを採る方、自由に散策しながら採る方、様々でした。

参加者全員で採ったきのこは、講師の方と一緒に、食用・不食・有毒に分ける勉強会も実施し、当日きのこ汁にして、参加者と一緒に食べました。

きのこ汁と一緒に配られるワサビ漬けがのったご飯も、人気です(^o^)!  
次年度は、新型コロナウイルスを気にすることなく開催出来たら良いです。

きのこを採る参加者



採ったきのこ(左)、ワサビ漬けご飯とききのこ汁(右)



### ☆支援

- ・カルチャー教室は、R3年10月23日に、生活を楽しく便利にするアプリと題して、開催しました。近年増加している災害に関するアプリの紹介があり、参加者の防災意識を高める良い機会になりました。コロナ禍で、少人数の参加でしたが、講師に日頃使っているスマホ端末等の困りごと相談に加えて、参加者同士での相談・解決、会話等をされていたことで、地域の集いの場にもなっていました。

R3/10/23 カルチャー教室



- ・百歳体操は今現在、毎週金曜日、主に匹見中央・紙祖地区の方が集まって匹見タウンホールにて開催しています。参加人数は増加傾向にあります。匹見タウンホールの改修に伴い、匹見上公民館での開催もありました。最終日の匹見上公民館での百歳体操終了後には、匹見中学校総合文化部による箏の生演奏を聴きながら、匹見小学校の振替休日を利用した公民館活動の体験で、手作りのお菓子を食べる“カフェ”を開催しました。日頃触れ合うことの少ない小学生との体験に、参加された方皆さん喜んでおられた様子でした。

R3/7/1 百歳体操in匹見上公民館 (左側)

R3/7/30(最終日) 箏の生演奏・小学生によるカフェ(右側)



- ・支え合いマップは、三葛地区の全集落を作成しました。R3年10月6日に三葛地区の健康教室とあわせて行いました。匹見上清流の郷の会長も同行され、挨拶をしていただき、マップ作成時には、直接三葛地区の体制等一緒に聞いてもらいました。三葛地区の方に匹見上清流の郷の取り組みを知ってもらおうきっかけになったのではないかと思います。

## ☆環境保全

- ・鳥獣被害対策研修は、R4年3月12日に予定しており、事前の打ち合わせとして、匹見上清流の郷の役員と事務局で西部農林センターへ訪問しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止としました。他地区の取り組みや、事例報告、意見交換会の予定でした。次年度はぜひ開催し、多数の参加をいただきたいと思います。
- ・動物駆除用煙火花火販売は、1月末時点で103本購入がありました。次年度は告知端末での呼びかけを積極的に行いたいです。  
動物駆除用煙火保安講習会は、R3年9月11日に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講習会はず、受付のみで講習完了となり、更新39名、新規取得4名、あわせて、43名の方が受付をしました。

動物駆除用煙火保安講習会  
花火購入の様子



- ・箱罾貸出は、貸出期間を延長しました。そのことによって冬の捕獲も可能になります。匹見上清流の郷では、箱罾を2基保有しており、R3年度末には2基追加購入の予定で4基となります。住民の困りごとに協力、対応していきたいです。現在、3頭捕獲の報告があります。

箱罾  
捕獲した猪



## 4. 残された課題と今後の提案

匹見上清流の郷、3年目が終わろうとしています。取り組みや、活動していることが匹見上地区全域には浸透していない様子です。委員構成についても入れ替わり等無く、これからの匹見上をどのようにしたいかは匹見上地区全員で考えていかなければいけないと思っています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、多数のイベントを中止としました。イベントが出来ず、ますます地域同士の触れ合いが減っているように思います。今後も小さなイベントでも地域同士の触れ合いを大切にしていきたいです。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

匹見上地区応援隊員として就任して、初めてのことばかりで不安でしたが、館長さん、主事さん、会長さん、委員の皆さんに教えてもらう中で、住み慣れた地域で仕事ができることの喜びと、匹見上地区に暮らしている方の優しさや温かさに改めて気づくことができました。

教えてもらったこと、支えられていることに感謝して、この匹見上地区を今よりもっと良い地区にしていきたいです。

## 匹見下地区

### 地域魅力化応援隊員 氏名 藤原 宗則

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
匹見下地区

2. 配置年月  
令和元年8月から

3. 活動の概要

#### ①活動の内容

自治組織の応援、並びにサポート

##### (1) 匹見下いいの里づくり協議会総会

昨年度は書面決議だったが、今年度は、ほぼ全員出席しての総会を開催した。今年度から新5ヶ年計画がスタートし、人口減と高齢化が進行する地域において、身の丈にあった事業を進めていこうと決定した。



総会の様子1



会長あいさつ



総会の様子2



総会の様子3

##### (2) 各委員会活動

###### 1) 地域活性化委員会

新型コロナウイルスの感染予防のため、今年も多くが中止となったが感染予防対策を進めながら事業を行っている。

- ・「のぼり旗の設置」はゴールデンウィーク・年末年始に設置
- ・新事業「生活のうるおいづくり」はグラントワでの映画鑑賞を実施（令和3年8月21日）
- ・「明誠キャリアサポート」を支援（延べ8日間）



明誠高校生と対面



川釣り体験



郷土料理作り



グラウンド・ゴルフ

・「いいの里っ子塾」を開催・・・令和3年12月26日（日）。



昔の遊び風景



竹灯籠製作



製作風景



ポン菓子作り

## 2) 健康福祉委員会

新型コロナウイルス感染予防のため、一部事業が中止となったが、感染予防策を取りながら事業行っている。

- ・いきいき 100 歳体操（広瀬地区・澄川地区・石谷地区）の実施

令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月まで 48 回の予定（現在のところ 5 回中止）



いきいき 100 歳体操の様子

- ・ナイター・グラウンド・ゴルフの開催

7 回実施（うち 1 回は明誠キャリサポと共催）



グラウンド・ゴルフの様子

キャリサポの参加

- ・健康講演会（認知症予防：11 月 4 日・口腔ケア：11 月 18 日）実施



認知症予防講演会（小原さん）

口腔ケア講演会（澄川先生）

## 3) 生活環境委員会

新型コロナウイルス感染予防のため、一部事業が中止となったが新規事業を中心に、できる事を行っている。

- ・有害鳥獣の電牧柵・花火による追い払い実証実験（令和 3 年 11 月）

サル被害が出ている畑をお借りして、電牧柵を設置。1 年を通してサルの侵入状況を監視。

- ・地区を決めて、その地区の花火取扱資格取得者に動物駆除用花火を貸与し、サルが出没したら全員で撃って追い払う。



- ・消火器・火災報知器・告知放送端末の点検（令和 3 年 11 月 12 日）

石谷地区で 8 軒の世帯を点検（その内 7 軒が告知端末の電池切れ）





- ・不用品縁結び事業の実施（令和3年8月～）

家庭で、使わずに眠っている不用品を必要としている人に譲るご縁を取り持つ事業

※テレビ・冷蔵庫・草刈機・管理機など

※家電や農業用機械など買い替えなどで使用していないもの



公民館内に設置した掲示板

## ②活動の成果及び効果

第2期5か年計画が決定され、各委員会がそれぞれに実施しているが、第1期に比べ今後5年間で実施可能なもの、人口減や高齢化などで実行できそうにないものと選別し、各委員会で事業項目を減らした。

それでも新型コロナウイルス感染予防のため、実施できない事業もあるが、新規事業を中心に地区民の繋がりを深め、直面する課題の克服に努めている。

中でも、高齢化に伴う「認知症」や「口腔ケア」の講演会は多くの地区民が関心を示し、参加者も多く、健康維持の意識の高揚に一役買う事ができた。

また、新規事業として始めた、「生活のうるおいづくり」や「消火器・火災報知器・告知放送端末の点検」などは、今までにない協議会と地区の個人・世帯を繋ぐ試みとして好評を博している。今後の事業の新しい方向性になりえる可能性がある。

## 4. 残された課題と今後の提案

### ①残された課題

(1) 高齢化と人口減少、健康不安により協議会の活動が停滞さえざるをえない状況になっている。そこに長引くコロナ禍により事業の中止が相次ぎ、地区民のモチベーションも下がってきたように見える。

(2) 後継者不足は深刻で、一部の委員は若返りが計れたものの、その後が続く人がおらず、事業を企画しても人材不足で、委員ばかりに負担がかかってくる現状になっている。

### ②今後の提案

(1) 第2期5か年計画が始動し、第1期に比べ、「できること」へのシフトに事業が大きく動いた。しかしそれでも一年間に一度も手を付けられない事業も有る。

又、事業そのものに具体性が乏しく、事業名だけが挙げられているケースもある。視点を変えて、そうした事業は思い切って捨て、「できる事」に集中し、他地域の協議会とも連携して、この匹見地域全体の発展を見据えた活動が出来たらと思う。

(2) 人口減の地域ではあっても、地域の人には多様な意見や欲求があり、年代や体力に応じた小さな繋がりを築いていけたら、新しい協議会の未来も見えてくるかもしれない。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

この2年間、新型コロナの感染拡大に、協議会の事業も大きく振り回され、今までの活動の考え方では、立ち行かなくなる不安も出てきた。ウィズコロナの時代にどのような活動かできるのか？手探りではあるが考えていきたい。

## 道川地区

地域魅力化応援隊員 氏名 高田 純子

令和3年度における地域魅力化応援隊員業務について、次のとおり報告します。

1. 配置部署  
道川地区

2. 配置年月  
平成26年4月

3. 活動の概要

①活動の内容

■地域自治組織活動支援

☆組織運営の支援

・組織を構成する各種団体及び地域住民の連絡、調整、会議、運営の支援、研修会、講演会等の調整、実施。関係機関との連絡、調整等。

☆まちづくり計画及び活動計画に沿う活動の支援、公民館との協働。

・賑わいづくり ・ひとづくり ・暮らしの安心づくり

☆益田市生活支援体制整備事業 第2層協議体(社協との連携)

☆匹見地域3自治組織が関わる事業

②活動の成果及び効果

【組織運営の支援】

■総会、役員会、全体会議 企画委員会 各種地域活動企画会議 の実施



旧道川小学校環境整備の際

☆地域内交流事業についての協議

7月5日 役員会開催

・盆踊り大会・・・中止

・地区民運動会、地区民親睦交流会

○状況を見ながら判断する・・・中止

12月15日 役員会開催

・新年あいさつ会 開催決定・・・R4.1.1 実施

【まちづくり計画に沿った活動支援】

■《賑わいづくり》関係人口の拡大

☆人が集まる機会を創る活動 ☆地域の「宝」を活かす ☆里山の景観を活かす

○「文化遺産を活用した地域づくり」事業(まちづくり活動特別補助事業)

昨年度、日本遺産「石見神楽」が継承される地であること、また、益田市全体



のPRに繋げるために整備した「石見神楽に出会える場所」の活用

- ・10月28日～11月8日 菊花展の開催
- ・11月6日 菊花展にあわせ、フリーマーケットを開催(来場者 約100名)



- ・特産品開発事業として手掛けている「猪コロッケ」を販売(120個 完売)



○旧割元庄屋美濃地屋敷の活用(9月7日より 屋根葺替え工事の為年内休館)

- ・花いっぱい活動

6月30日 明誠高校キャリアサポート活動 昔の道具を使って花苗植栽。



- ・【「ひまわりを咲かそう！」地域に元気と笑顔を】

6月13日 種まき(道川地区多面的機能保全活動組織と協同作業 31名参加)



参加者に「地域づくりの会」で育てた花苗プレゼント

8月上旬満開 住民、道の駅の利用者等が立ち寄り、撮影する姿が多く見られた。



○自生するヤブツルアズキ（縄文時代から食されていたという小豆の原種）の活用  
 9月下旬～10月中旬収穫（さやもぎ）⇒ 乾燥 ⇒ 試食会の実施、播種用種の確保  
 10月14日（9名）、12月9日（9名）、12月22日（13名）試食



おこわ、ぜんざいに調理し試食

○道川清流さくらひろばの環境整備…草刈り等 維持管理、育成



○旧道川小学校・公民館周辺環境整備・道の駅環境整備



☆情報発信 <http://michikawa.info>

- ・ホームページ、フェイスブック、英語神楽（道川神楽社中）PR動画配信等
- ・道川おさんぽマップの作成、配布

## ■《暮らしの安心づくり》

☆暮らしを守る活動 ☆生活環境を守る活動

支え合いの仕組みづくり（現状把握からのスタート）

社会福祉協議会と連携しての取り組みとした。（概ね70歳以上対象者44名）

訪問員（社協 生活支援コーディネータ、公民館長、高齢者サロン代表、老人クラブ道川寿会友愛訪問員2名）

事前打ち合わせ2回

11月17日～12月16日 41名実施

12月16日終了後 訪問員の総括

聞き取り内容、アンケート内容の分析

来年度へのアクションを協議



☆地域防災活動

- ・緊急情報キット確認…年1回の登録台帳の確認の呼びかけ、変更有に対応。
- ・避難訓練…企画会議後、分遣所と相談⇒実施は難しいと判断し、中止した。

## ■ 《ひとづくり》

### ☆歴史文化をつなぐ

5月13日 「益田市の日本遺産と道川の関わり及び道川地区の文化財」勉強会



「文化遺産を活かした地域づくり」  
・道川を自慢に思えた！  
・非常にわくわくした！  
大切な文化遺産をもっと広く周知しようという思いが沸き上がった。

### ☆地域のつながりを育む ☆一人一人の個性を育む・・・学び合い活動

#### ○心と体の健康づくり

高齢者サロンと介護予防を兼ね、公民館と連携し、いきいき百歳体操（8月～12月毎週1回、計16回 延べ232人）、お出かけ講座(地区内3ヶ所)を実施。住民同士のつながりを強めることで、普段の暮らしの中での平穏を保てるよう努めた。



#### ○地区民交流事業（世代間交流事業）

8月8日 道川っ子夏の寺子屋（中、高校生、保護者等17名参加）

1月1日 新年挨拶会（幼児、小、中、高校生含め 26名参加）

## 4 残された課題と今後の提案

人口が少ない、担い手不足という状況の中で最たる課題が農地の維持、多面的機能の維持、管理である。そのような中、農業の担い手による「道川地区多面的機能保全活動組織」が生まれた。今年、自治組織と協同作業を行い、ひまわりの種をまき、地域資源を活かした景観づくりに取り組むことができた。

この協力体制を継続し、地域外の人々を巻き込みながら、農地を活用しての賑わいづくり（関係人口の増加）に発展させることが必要と考える。

## 5. 地域魅力化応援隊員の活動を振り返って

今年度、まちづくり計画の第2期をスタートしました。コロナで集まりが極端に減少して2年、「まず1歩」を踏み出すことを今年度の目標とし、聞き取りアンケートを行いました。「地域の行事でぜひ再開してほしい行事がありますか？」の問いに対し、「続けてほしい」という回答に運動会、親睦交流会などの世代間交流事業が含まれていました。このことは、これまで企画、準備、運営に携わってきた方々にとって、とっても嬉しいことです。「これまでと同じことはできないけれど、やり方を考えればきっとできる!」。皆さんの「やりたい!」という思いを少しずつ形にしていく中で、共に考え、共に笑えることをありがたく思います。話し合う事は多いけれど、「一歩ずつ進む元気」をいただいた1年でした。

## ○地域魅力化応援隊員事業実施要綱

平成26年4月1日

益田市告示第77号

改正 平成27年6月12日告示第150号

平成29年3月13日告示第47号

平成31年3月29日告示第90号

令和元年5月1日告示第1号

令和2年3月31日告示第96号

(趣旨)

第1条 この要綱は、公民館等を中心とした区域（以下「地区」という。）において、人口減少、少子高齢化等により集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域運営を主体的に行う新たなコミュニティの創設及び地域の魅力の創造（以下これらを「地域魅力化」という。）に向けて、地区における当該コミュニティの設立を支援し、並びに地域住民が抱える地域課題の整理及び情報の共有化による住民自治機能の充実や機能強化を支援するため市が設置する地域魅力化応援隊員（以下「応援隊員」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(配置)

第2条 市長は、地域魅力化に向けて次の各号のいずれかに該当する団体の存する地区の公民館に応援隊員を配置することができる。

(1) 益田市地域自治組織設立支援事業補助金交付要綱（平成29年益田市告示第46号）の規定による補助金の交付対象となる団体

(2) 益田市地域自治組織の設立認定に関する要綱（平成27年益田市告示第11号）第5条第2項の規定による設立認定を受けた地域自治組織（以下「認定地域自治組織」という。）

2 前項の規定にかかわらず、益田市地域マネージャー等雇用交付金交付要綱（令和2年益田市告示第91号）の規定による益田市地域マネージャー等雇用交付金の交付を申請する団体の存する地区の公民館には、応援隊員を配置しない。

(任命)

第3条 市長は、地域コミュニティの構築に意欲をもって取り組む者、地域の実情に精通した者又は地域の活性化の推進に関して知見を有する者を選考し、応援隊員として任命する。

(身分)

第4条 応援隊員の身分は、地方公務員法（昭和25年法律第261号）第22条の2第1項第1号に規定する会計年度任用職員とする。

(任期)

第5条 応援隊員の任期は、その任命の日から同日の属する年度の末日までとする。

(所掌事務)

第6条 応援隊員は、配置される地区における第2条第1項各号に掲げる事業を実施する団体又は認定地域自治組織の活動の支援に関する事務を所掌する。

(報告)

第7条 市長は、応援隊員に対し、別に定めるところにより月ごとの業務の内容について報告を求めるものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、平成26年4月1日から施行する。

(有効期限)

2 この告示は、令和5年3月31日限り、その効力を失う。

附 則 (平成27年6月12日告示第150号)

この告示は、平成27年6月12日から施行する。

附 則 (平成29年3月13日告示第47号)

この告示は、平成29年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、平成29年3月13日から施行する。

附 則 (平成31年3月29日告示第90号)

この告示は、平成31年4月1日から施行する。

附 則 (令和元年5月1日告示第1号) 抄

(施行期日)

1 この告示は、令和元年5月1日から施行する。

附 則 (令和2年3月31日告示第96号)

(施行期日)

1 この告示は、令和2年4月1日から施行する。ただし、附則第2項の改正規定は、令和2年3月31日から施行する。

(経過措置)

2 この告示による改正後の地域魅力化応援隊員事業実施要綱の規定は、令和2年4月1日以後に任命する応援隊員について適用する。

発 行 令和4年3月

発行元 益田市政策企画局連携のまちづくり推進課

〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL 0856-31-0600

FAX 0856-23-7708

E-Mail : renkei@city.masuda.lg.jp